

令和5年度
阪神南ふるさとづくり応援事業

事例集



兵庫県阪神南県民センター

【大阪・関西万博に向けた交流促進支援事業】

番号	市	事業名	団体名	ページ
A-1	尼崎市	地場の伝統を世界に発信「尼崎体験2023」	道慎館	1
A-2	尼崎市	阪神南地域魅力発信事業	特定非営利活動法人シンフォニー	3
A-3	尼崎市	尼崎あきんどフェスティバル	尼崎あきんど倶楽部	12
A-4	尼崎市	第21回契沖顕彰短歌大会	契沖の会	14
A-5	西宮市	第三回 西宮・伝統芸能の夕べ 狂言「夷毘沙門」	一般財団法人日本伝統芸術文化財団	17
A-6	西宮市	“海の甲子園”ユースセーリングカップ	海の甲子園実行委員会	20
A-7	西宮市	西宮の日本酒振興プロジェクト	西宮日本酒振興連絡会	23
A-8	西宮市	阪神南インバウンド観光実証実験	西宮まちづくり連携プロジェクト	26
A-9	西宮市	西宮浜まちじゅうミュージアム2023	西宮浜観光社	29
A-10	芦屋市	野菜が飛び出したら、パンが降ってきた！	フライパン	38
A-11	芦屋市	フクマチ-服でまちは福が来る-	tumugu	41

【地域活動支援事業】

番号	市	事業名	団体名	ページ
B-1	尼崎市	老いを楽しく生きる知恵を学ぶ	潮江幸齢者ふれあいサロン	44
B-2	尼崎市	三世代交流健康体操と苔玉づくり	武庫第6コミュニティ委員会	50
B-3	尼崎市	中難波婦人会地域ふれあい事業	中難波婦人会	52
B-4	尼崎市	第12回阪急武庫之荘駅前ロータリー祭り	武庫之荘水と緑のまちづくりプロジェクト実行委員会	54
B-5	尼崎市	あまがさきホテル再生プロジェクト	あまがさきホテルの会・宮ノ北	57
B-6	尼崎市	塚口の古い歴史と文化を感じ今を伝える	NPO法人 ASUネット	59
B-7	尼崎市	夏祭り花火大会	コミュニティルーム武庫運営委員会	61
B-8	尼崎市	「大豆プロジェクト」	園北ファーム「田能みんなの畑」	63
B-9	尼崎市	あまっこインターナショナルスクール	特定非営利活動法人尼崎市国際交流協会	67
B-10	尼崎市	地域コミュニティ活性化事業	高齢者福祉を考える会	69
B-11	西宮市	第7回西宮浜さくら祭	西宮マリナパークシティ協議会	72
B-12	西宮市	「街区公園（岩ヶ平公園）を活用した多世代交流と健康づくり」=公園清掃～焼き芋づくり～地域住民のための交流プログラムの実施=	芦屋市岩園町自治会	75
B-13	西宮市	おさんぽガーデン vol.6	Osanpo Garden実行委員会	79
B-14	西宮市	2023 西宮ギャラリーさんぽ	西宮ギャラリー連絡会	82
B-15	西宮市	空き家・空き地の未然対策による持続可能なまちづくり事業	一般社団法人 方創生パートナーズ	85
B-16	西宮市	「防災力×美しいまちなみ」啓発・提案事業	西宮まちなみ発見倶楽部	88
B-17	西宮市	コミュニティ活性化グラウンド・ゴルフ整備事業	西宮市里中町自治会	93
B-18	西宮市	第76回西宮市民体育大会の「第10回小学生スナッグゴルフの部」	一般社団法人西宮市ゴルフ協会	96
B-19	西宮市	西宮里山 親子の学校	NPO法人 a little	99
B-20	西宮市	都市と農村がつながろう！「ひょうごつながりフェスティバル」	みやぱく	102

番号	市	事業名	団体名	ページ
B-21	西宮市	夏のお楽しみ会	段上地区青少年愛護協議会	105
B-22	西宮市	2023みやっこ音楽回廊実施事業	みやっこ音楽回廊実行委員会	108
B-23	西宮市	阪神モダニズムの活性化伊藤弘之 さくら回廊展	阪神文化交遊会	111
B-24	西宮市	地域高齢者のいきがいと多世代交流の活性化事業	なないろの会	115
B-25	芦屋市	高校生が発見・発信する芦屋の魅力	あしや部	117
B-26	芦屋市	HAI's講座	芦屋市朝日ヶ丘地区集会所 運営協議会	123
B-27	芦屋市	子供たちの心のふるさとづくり	東山公園を美しくする会	126

【地域の魅力発信集客イベント支援事業】

番号	市	事業名	団体名	ページ
C-1	尼崎市	園田出身の音楽パフォーマーの演奏会	特定非営利活動法人ええうた工房	129
C-2	尼崎市	音楽を通じて地域の交流活性化を図る	ミュージック・アップ・デート	131
C-3	尼崎市	地域をつなぐ子育て応援隊事業	特定非営利活動法人やんちゃんこ	134
C-4	尼崎市	尼崎えびす神社 手づくり市	尼崎えびす神社手作り市実行委員会	136
C-5	尼崎市	地域密着イベントである「寺町まちあかりイベント かるた事業」	尼崎商工会議所青年部 地域密着委員会	139
C-6	尼崎市	武庫川髭の渡しコスモス園	髭の渡し花咲き会	141
C-7	尼崎市	塚口秋祭り「縁日」	塚口倶楽部	144
C-8	西宮市	もっとみやしる2023	西宮商工会議所青年部	147
C-9	西宮市	こどもカフェプロジェクト	一般社団法人eete訪問療育協会	151
C-10	西宮市	第16回LALALAにしきたミュージシャンコンテスト'2023	西北活性化協議会	153
C-11	芦屋市	第35回あしや秋まつり	あしや秋まつり協議会	155
C-12	芦屋市	第45回芦屋サマーカーニバル	特定非営利活動法人芦屋市民まつり協議会	158
C-13	芦屋市	リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023	リレー・フォー・ライフ関西実行委員会	161

A-1 地場の伝統を世界に発信「尼崎体験 2023」／道慎館

活動地域	1 () 市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町： 尼崎市、西宮市、神戸市、海外) 活動地域とは、本事業の参加者やその活動の影響が及ぶ範囲
協働団体	
事業の目的	<p>元アジア王者である館長や、世界統括団体の事務局長を歴任する当館事務長の国内外のネットワークや、地域の他武道・伝統文化団体との交流イベントの実績・ノウハウのある当館が核となり、空手や書道、日本舞踊、伝統料理といった「言語の壁を越えて発信・交流できる尼崎の伝統体験」に加え、我が国固有の風習をルール統一のうねで全国大会まで実施している「スポーツ鬼ごっこ」や兵庫の防災活動を、今年・来年の2年連続で実施することにより、万博を機に来訪する国内外の旅行者の兵庫誘客に寄与する。また、この模様をインスタや YOUTUBE 等で発信することにより、地域の魅力を国内外に発信する。</p>
実施内容	<p>道慎館ホームページをはじめ、全国組織である「鬼ごっこ連盟」等のインスタ、Facebook、ポスター、メール等により広く世界に事業内容を周知し、呼びかけることにより、国内外の空手関係者のみならず、日本の「伝統」に興味を持つ国内外の人に「尼崎」を体験していただく。また、YOUTUBE 等で発信することで、万博での兵庫誘客の呼び水とする。</p> <p>1 防災避難テント設営 (1) 実施場所：尼崎の森中央緑地 (2) 内容 大会本部としても利用するため、事業に先立ち、予行演習として社会貢献学会の指導の下、ブルーシートとポールだけで大型避難テント等を設営し、非常用電源による機材の動作確認をするなど、イベント本部としての機能を実証した。ただし、事業を予定していた日が大雨になったため、予行演習だけに終わった。</p> <p>2 交流イベント (1) 実施場所：尼崎立花体育道場 当初、尼崎の森中央緑地を予定したが、大雨であったことから延期し、尼崎立花体育道場で実施した (2) 内容 ①書道体験：師範の指導により、外国人に人気が高い書道体験を行なった。 ②空手大会・体験：空手着で今年度の全国大会出場選手と共に練習をするともに、現役選手によるトーナメント大会を実施した。 ③日舞：世界で人気のアニメの主題歌に合わせ、日舞の先生の指導による踊り体験を行った。 ④スポーツ鬼ごっこ：創始団体である愛知県鬼ごっこ連盟のコート設営、指導のもと、競技鬼ごっこトーナメントを行った。 ⑥伝統料理の振る舞い：尼崎21世紀の森構想の中核である服部保博士の指導を仰ぎつつ、地域の高齢者による、伝統料理の体験・試食を行った。</p>

	年	月	日	活動場所	実施内容	参加予定人数	
						スタッフ	参加者
実施経過	5	9	18	尼崎中央緑地	予行演習(テント設営、鬼ごっこ)	25	25
			11	4	尼崎中央緑地	雨天延期	13
	6	1	28	尼崎立花体育道場	書道体験	2	15
					空手大会、体験	14	62
					剣道体験	2	20
					ダンス	2	2
					スポーツ鬼ごっこ	3	33
					盆踊り体験	7	29
6	1	末	ネット上	Youtube ライブで発信	7	29	
			ネット上	インスタ等で世界発信			
目標の達成状況	雨天延期に伴い、会場を体育館としたことから、人数を制限した						
	1 「万博」書道体験		スタッフ 2人		15人		
	2 空手大会、体験		スタッフ 14人		62人		
	3 剣道体験		スタッフ 2人		20人		
	4 ダンス		スタッフ 2人		2人		
	5 スポーツ鬼ごっこ		スタッフ 3人		33人		
	6 日舞体験		スタッフ 7人		29人		
	7 伝統料理		スタッフ 7人		29人		
	8 ネット発信		閲覧数 年間 2,000ビュー				
事業効果	毎年、タイムリーなテーマで「多地域・多世代交流イベント」を継続開催することにより、過疎化が進む尼崎南西部において、より多くの住民による多世代、多文化の交流が図られ、地域の活性化や青少年の健全育成、地域貢献が図られた。 また、尼崎の伝統を活用して、インバウンドに貢献できる。						
補助金交付終了後の事業展開、今後の展望	(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。) 今年度、雨天により大きな事業を行えなかったが、糸東流修交会神戸大会において外国人指導者に働きかけたことで、来年度は100人ベースでオーストラリア、ニュージーランドからの参加者を得られることとなった。 また、神戸市に本部を置く「石飛派」、姫路市に本部を置く「上山派」、名古屋に本部を置く「栗田派」など、全国組織の団体からも参加希望を受けていることから、来年こそは、海外との交流も、規模の大きさも期待できる。						

事業実施状況を示す写真



A-2 阪神南地域魅力発信事業／特定非営利活動法人シンフォニー

活動地域	1 (尼崎市) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市 大阪市)
協働団体	
事業の目的	長く続くコロナ禍の影響で、阪神南地域の観光業は大きなダメージを受けている。商店街など地域経済の停滞も続いている。そんな中、2025年に184日間にわたって開催される大阪・関西万博は大きなチャンスとなっている。開催会場は尼崎市に隣接する大阪市此花区の夢島である。想定来場者数：2820万人（関西在住1,560万人、関西以外910万人、インバウンド350万人）と予想されている。 この機会をとらえ、大阪・関西万博を活用し、域外からの交流を促進するにぎわいづくりを促進する活動を行う。
事業内容	(1) 尼崎で世界旅行 エジプト編 (8月27日実施) 9月17日に予定していたが、アラブ人から「アラブディー」に近い日(7月末) 8月27日尼崎で実施した。「文化紹介」をスライドで実施し、ハラール料理で「おもてなし」する形。 事業内容としては、「文化紹介」をスライドで実施した。また食材をハラールフード専門店(神戸市)で購入し、「ハラール料理」をつくり、「おもてなし」する形で実施。アラブ語で書いた名前を書いてプレゼント。 参加人数 18名(アラブ人6名、日本人12名)



ハラール料理が続々と



コーディネーターの
皆さん

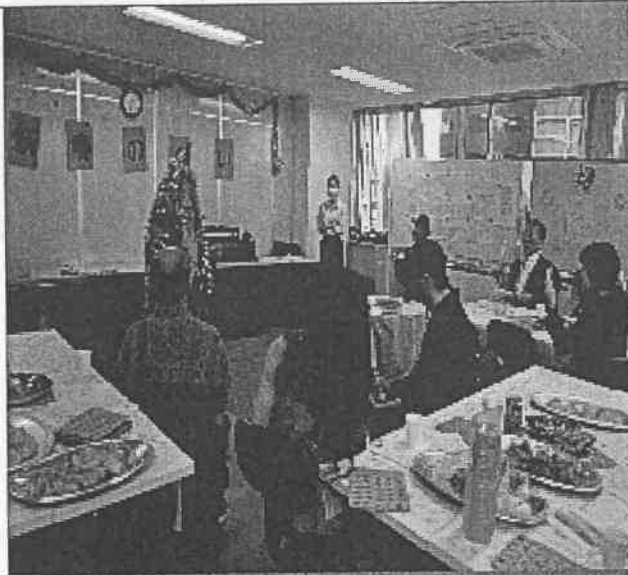


尼崎でアラブ旅行

②異文化体験交流会（2024年1月28日実施）

この事業は人気があり、各国編バージョンアップし、在日外国人がインバウンド誘客の下準備として行うことになった。

1月28日には、ベトナム人留学生が主体となって異文化交流体験会を実施。当日は尼崎名物の「虎のおばちゃん」も参加し、外国人親子が多数参加した。MCはインターナショナルスクール卒業生のエジプト人。ギターと歌はベトナム人。



尼崎名物の虎
のおばちゃん
も参加

③尼崎で中国旅行（2024年2月17日実施）

在日中国人の意向で「尼崎で中国旅行」を2月17日に実施。こちらは中国餃子等を家で作って持ってきてもらい。異文化交流の繋がり体験会としてとして実施。

中国料理、文化でおもてなし

参加人数 17名（中国人 5名、日本人 12名）



尼崎で中国旅行



中国料理（すぶた）
でおもてなし



中国人のおもてなし

(2) 昭和レトロ杭瀬商店街撮影ツアー (2023年12月16日実施)

当初、11月24日に予定していたが、杭瀬一番商店街振興組合(理事長和田周治)から「12月に餅つき大会を商店街でやるので、それに合わせてほしい」との意向があり、12月12日に実施。当日は、中国人等が参加。

ツアーは、杭瀬市場を案内。尼崎にアジアがあると人気。

インター中の学生も参加。

2025年に184日間にわたって開催される大阪・関西万博は、想定来場者数が2820万人と予想されている。その内、海外からの「インバウンド客」は350万人と見込まれている。そのインバウンド客を楽しんでもらうのが目的。



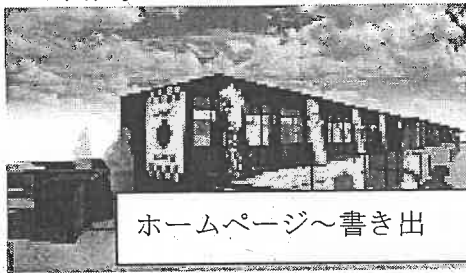


杭瀬市場も
案内

(3) 大阪・関西万博下見ツアー&地域限定旅行検討会

会場への入場制限があり、2回予定していた「ツアー」の形では実施できなかった。

代わりに、調査員（スタッフ4名）で車で近場のコンビニまでいく。今後のルート開発。



ホームページ～書き出

検討委員会座長



矢下幸司氏（日本国際観光学会正会員、関西ベンチャー研究学会会員、観光ジャーナリスト、地域活性デザインと日本経済大学 神戸三宮キャンパスで勤務）

また、福祉事業所体験ツアーも、準備不足で実施できなかった。

この過程で判明したこと

・阪神南特有の体験型観光旅行として、人気 No 1 は尼崎センタープール駅前の「モーターボート」。

競馬、自動車、自転車は海外にもあるが、モーターボートはないらしい。

・中国の中高生が修学旅行先として日本に来て日本の中高生と交流したいとい

ニーズが多い（旅行会社からのオファー）

- ・美容室体験、工場見学も人気がある
- ・経営ビザ取得・就業の相談も不可避

これらは次年度以降の課題。

検討委員会を開催し（座長は矢下日本経済大学准教授、広域DMOを進めている）、現在次年度以降の地域限定旅行を準備中。

	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
実施経過	23	8	27	尼崎市	尼崎で世界旅行—アラブ編 ハラル料理でのおもてなし 無料	4	12
	23	10	13	大阪市	万博予定会場下見ツアー (調査活動) 無料 (準備不足)	4	0
	23	11	15 ~ 20	尼崎市	異文化体験スタンプラリー 無 料 (準備不足で実施できず)	5	0
	23	11	20	尼崎市	多言語おもてなし講座 ¥ 5500 (実施体制に問題あり)	2	1
	23	12	16	尼崎市	昭和レトロツアー (外国人と一緒に杭瀬商店街ツア ー) 無料	5	25
	24	1	28	尼崎市	異文化コミュニケーション広場 (異文化体験広場) ¥ 3000	6	23
	24	2	17	尼崎市	尼崎で世界旅行—中国旅行編 無料	6	22
目標の 達成状況	<p>地域限定両行業の免許を取得したが、当初予定していた「万博下見ツアー」はツアーとしては実施できなかった。</p> <p>また、「おもてなし英語講座」も異文化コミュニケーションの流れは出来たものの講座は実施できなかった。</p> <p>一方、商店街振興組合から「多言語誘客(挨拶程度)講座」の要望があり、その準備に入った。挨拶程度であれば「5か国語対応を3時間程度でやることも可能」。この事業は次年度以降に「5か国語誘客講座」として再編していきたい。</p>						

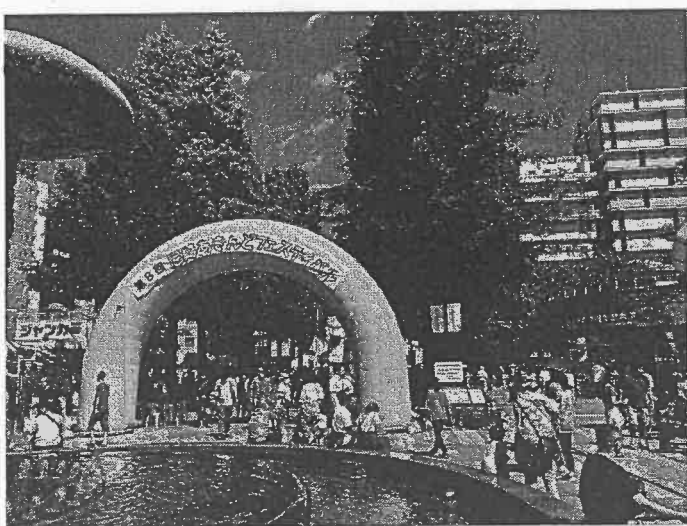
<p>事業効果</p>	<p>「尼崎で世界旅行」という形で、定住外国人が「支援を受ける側から支援をする側に」をテーマに「おもてなし」を主体的にすることで、異文化コミュニケーションの機運を盛り上げることが出来た。</p>
<p>補助金交付終了後の事業展開、今後の展望</p>	<p>(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)</p> <p>次年度の実施方針としては次のことを考えている。</p> <p>①今年盛り上がった「尼崎で世界旅行」はよりかくじゅうしていきたい。</p> <p>②商店街組合と連携し、「5か国語誘客講座」を商店主向けに実施していく。</p> <p>③昭和レトロツアーに加えて、モータボートツアーなど外国人から見た魅力再発見をスタディーツアーとして実施していきたい。</p>

A-3 尼崎あきんどフェスティバル／尼崎あきんど倶楽部

活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町： 京阪神地域)
協働団体	尼崎商工会議所
事業の目的	フェスティバル開催に伴い、計画立案や会議を通して会員同士の士気を高め合い開催までのプロセスを重要視することと共に、会員の知恵と協力で開催することを趣旨とします。また、尼崎市民が楽しめる事業開催は元より、2年後の開催される大阪万博を見据え海外の観光も含めハブ地点である阪神尼崎の利便性をアピールすることにより尼崎全体の活性化を目的とします。
事業内容	<p>前日 8 : 00 ~ 設営開始 17 : 00 ごろ設営終了</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ステージ 10 : 00 ~ 開会式後 18 : 30 まで出演者、グループ演目 15 組 開会式では双星高校吹奏楽部の演奏で国家斉唱を行い、尼崎市長・阪神南県民センター長をはじめ多くの行政関係者に出席していただきました。 ●ビンゴ大会 予定時間内に行い多く子供達が参加しました。 ●飲食 21 物販 10 ブース出店 昨年よりも多くのブースに参加いただきました。 ●ふわふわ遊具 利用料・現金 300 円・あま咲きコイン 200 円の利用料・一回 9 名で利用。 予め利用できる時間を設定していたが、長蛇の列ができ、うまくさばくことができなかつた。当日気温も高かつたため、並んでいる方に日陰を作寮にできればなおよかつた。運営側の余裕があれば 1.5 倍~2 倍の収益は見込めます。現場の判断で利用者の入退室時の安全などは確保できました。 ●第 10 回 AMAGASAKIDANCECONTEST 開催 キッズ 10 組一般 9 組出場 2 時間 今年はキッズ部門、一般部門と分けて開催し、優勝準優勝をそれぞれ決めた。また、第 10 回という節目の年であり、より元気で自分らしい演技ができたチームに特別賞を設け、計 5 チームが表彰台に上がった。 ●あま咲きコイン活用・促進活動 あま咲きコインプレミアムの 100 名限定販売を 10 時から行ったが、時間前に長蛇の列ができ整理券を配布。配布開始の 10 時には整理券がすべてなくなり、早い時間で完売となった。特に市内の事業者の利用は多く、もっと限定数を上げてほしいという声もあった。 ●PR 活動 地域掲示板・あまメール・産経新聞掲載・小学校ポスター配布・amzone 掲載・KISS PRESS 掲載

	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
実施経過	'23	4	下旬	尼崎商工会 議所会議室	出店者の募集(随時開始)	-	
			中旬		全体会議	20人	
			中旬				
			中旬				
	9	23	阪神尼崎駅 前中央公園	設営・準備	50人		
9	24	阪神尼崎駅 前中央公園	あきんどフェスティバル	60人	1万人		
目標の 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ●来場者1万人 ●第10回 AmagasakiDanceContest70名エントリー 						
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもや、子育て世代といった若い世代に地域の団体を知ってもらえる。 ●あらゆる世代が楽しい時間を共有できる ●インバウンド効果を見込める ●尼崎の利便性のアピールができる ●多くの来場者を見込める為地域の店舗事業所を知ってもらうチャンスがある。 ●2年後の大阪万博を見据えた事業を行う事によって観光客に向けて尼崎をアピールする必要ある事と同時に活性化につながる 						
補助金交付 終了後の 事業展開、 今後の展望	(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)						

事業実施状況を示す写真



A-4 第21回契沖顕彰短歌大会／契沖の会

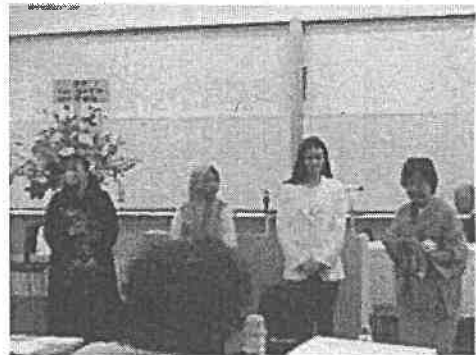
活動地域	1 () 市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	園田学園女子大学
事業の 目的・趣旨	<p>今年で21回目を迎える「契沖顕彰短歌大会」は、会員を含む一般社会人だけではなく、小学生、中学生、高校生、大学生、外国人からも短歌作品を募集している。今年、新たに外国人への応募を呼びかけた。また、ポスターを作り、市内等に掲示を行い、広く募集を行った。</p> <p>児童・生徒・大学生にも応募を呼び掛けるのは、短歌を創作することにより語彙力・表現力を磨くことができ、日本の伝統文化への興味や再認識にもつながり、教育効果が高いと考えるからである。</p> <p>兵庫県だけでなく全国から広く作品募集を行うことにより、契沖という人物、および和歌集などによる契沖の国学研究の功績・認知を広めることができ、ひいては、契沖誕生の地でその事務局もある「短歌の街・尼崎市」のアピールにもつながると考えている。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 募集要項作成、告知開始 (7月～) <ul style="list-style-type: none"> ・会員、昨年以前に応募があった個人へ告知 (約200名)、短歌の先生方へ応募依頼。 さらに市内12か所の生涯学習プラザ、図書館、尼崎ロータリークラブ、プロバスクラブ、尼崎文化協会、他短歌会などにも短歌大会の募集要項とポスターを配布し、短歌の応募活動に協力していただいた。 大学内でも応募要項を設置し、学生及び新たに外国人留学生、また生涯学習受講者にも応募を呼び掛けた。 ・ホームページ再構築、また短歌誌に応募要項を掲載し広く募集した。 2. 総会は5月12日に、さらに勉強会の開催は、4月23日、6月17日、9月16日、10月21日、11月18日、2月17日の6日開催した。 3. 応募締め切り (9月30日) <ul style="list-style-type: none"> 第一次選考 (10月25日) <ul style="list-style-type: none"> ・一般→選者による選考 ・児童、生徒→教員OBによる選考 ・大学生→契沖の会会長による選考 4. 第二次選考 (12月9日) <ul style="list-style-type: none"> ・一般、児童、生徒、大学生→選者 (6名) により選考し、受賞者 (特別賞、契沖賞、山の井賞) を決定。 5. 大会の実施については、役員会を12月10日実施 (小田南学習プラザにて) し、第21回の短歌大会の表彰式を実施する方向で決定。 6. 受賞者連絡 (1月初旬)、賞状・楯・『詠草集』など作成 (1月下旬) 7. 短歌大会 (2月3日開催) 8. 賞状・楯・『詠草集』の発送 (2月13日)

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	5	6	2	尼崎市立中央中学校	応募要領を中学校長会で説明、配布	2	30
	5	6	9	尼崎市教育総合センター	応募要領を小学校長会で説明、配布	2	42
	5	10	10	尼崎市教育総合センター	小中高第1次選考に関する説明	1	8
	5	12	9	尼崎市小田南生涯学習プラザ	短歌大会選者会（第2次選考）	3	10
	6	1	20	尼崎市小田南生涯学習プラザ	短歌大会の開催決定	2	8
	6	2	3	園田学園女子大学	第21回契沖顕彰短歌大会表彰式を大講義室において開催。	15	80
	6	2	10	園田学園女子大学	欠席者の賞状、盾、『詠草集』発送作業	3	10
目標の達成状況	<p>初めに掲げていた「応募総数 13,000 首以上」としたが、児童・生徒の部は、昨年よりも人数・歌数ともに応募が若干減少、11,993 首であった。</p> <p>一般の部は何とか昨年とほぼ同じであった。その結果、応募料の収益は昨年と同等であった。</p> <p>しかしながら、一般の部の短歌作品については、関東・中部地方からの応募があり、少しずつではあるが新しい地域からの応募も増えてきたといえる。また、2025年には大阪万博もあり、外国人の部を作り市内の公共施設にポスター掲示し、募集したところ、少ないが応募もあり、園田学園の留学生、留学避難生、その他社会人の外国人も応募、新鮮な作品が加わった。</p> <p>さらに、ホームページの充実もあり、今後の活動においてはさらに全国的に周知されて、ますます期待できる結果につながると予想される。</p> <p>応募者数：11,730名 総歌数 11,993首</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般の部（1人5首まで応募可能） 73名（206首） ・児童・生徒の部（1人1首） <ul style="list-style-type: none"> 小学生 9,491名 中学生 1,687名 高校生 419名 ・大学生の部（1人3首まで可能） 56名（176首） ・外国人の部 4名（14首） 						

<p>事業効果</p>	<p>今年の短歌大会も応募に対するモチベーションを上げる目的で、「契沖大賞」だけではなく、知事賞、教育長賞など多くの賞を設定することができた。 今年は、一般応募も中部、関東地方からの応募もあった。 また、6名の選者による入賞者の講評ができたことと、新たに外国人枠の表彰式を実施できたことにより、今後の応募者を増やすためにも新たな挑戦であり、今後に期待したい。さらに新聞においても記事を掲載していただいたことは、今後の作歌に対しての意欲づけになったと考えている。</p>
<p>補助金交付終了後の事業展開、今後の展望</p>	<p>本年は「契沖の会」を紙媒体以外でもアピールすべく、ホームページなどを利用して短歌大会や短歌勉強会等の会員増強活動のPRにつなげたが、今後もホームページの充実、SNSの活用により、応募拡大並びに会員拡大となるよう努めたい。 また、募集の時期を1か月早め、夏休み前には募集要項が配布され応募ができるよう時間の余裕を持った募集を考えたい。</p>

(添付書類)

事業実施状況を示す写真



A-5 第三回西宮・伝統芸能の夕べー狂言「夷毘沙門」ー

／一般財団法人 日本伝統芸術文化財団

活動地域	西宮市内外及び県内外の全域
協働団体	一般財団法人 日本伝統芸術文化財団
事業の 目的・趣旨	<p>「with コロナ」を念頭に入れた社会生活の中、阪神南地域の新たな魅力となる本芸術文化事業（西宮神社にゆかりある演目『夷毘沙門』を取り上げた狂言公演上演と能楽体験講座）により、「心豊かな人間性を涵養できる事業」を開催した。</p> <p>世界で活躍中の東京オリンピックの芸術監督としてもノミネートされた狂言師・野村萬斎が演じる日本を代表する伝統芸能「狂言」を、兵庫県阪神南地域から国内外へ発信し、阪神南地域のかつてのにぎわいの心と芸術文化から培うことのできる「生きる」心の創出、さらに、大阪・関西万博を見据え、一般市民を中心に他言語文化の人々と共に観劇体験してコミュニケーションの場づくりや国際社会の健全な発展を促進することを目的として事業を行った。</p>
事業内容	<p>■第三回 西宮・伝統芸能の夕べー狂言『夷毘沙門』ー</p> <p>【日時】令和5年8月10日（木）18時開場 18時30分開演 20時終演</p> <p>【場所】西宮神社 拝殿前特設舞台</p> <p>【入場者数】200名（A席150名、B席50名）内招待者28名</p> <p>【入場料】 席 円 席 円（全席指定・中学生以上）※お土産付き</p> <p>【実施方法】広報開始し、電話にて予約を受けてチケット料入金後に、チケット送付して当日チケットチェック後入場頂いた。西宮神社の拝殿前に特設舞台を設営し、トークショー、野村萬斎師ほか能楽師により西宮神社ゆかりの狂言「夷毘沙門」と狂言「柿山伏」を上演した。インバウンドや英語を母国語とする人向けに、PlatCast「スマホde解説」システムを導入し、各自のスマホを使用して英語で簡単な実況概要解説を聞くことができるようにした。</p> <p>【狂言公演プログラム】全体進行 橘高邦子</p> <p>トーク 西宮市長・石井登志郎、狂言方・野村萬斎、西宮神社宮司・吉井良昭 聞き手 シテ方 梅若基徳</p> <p>上演 狂言『柿山伏』『夷毘沙門』 出演 和泉流狂言方・野村萬斎 他 （万作の会）</p> <p>囃子：笛 杉信太郎、小鼓 成田奏、大鼓 山本寿弥、太鼓 前川光範</p> <p>■能楽体験講座「能楽ってなに？W HAT S NOH？」</p> <p>【日時と場所】8月10日（木）15時～16時 西宮神社会館</p> <p>【参加者数】2名 【参加費】3000円</p> <p>【内容】参加者は、DVDを視聴しながら能楽師による解説を英語の通訳によって理解し、ホンモノの能面を付けたり装束に触れたりする体験をすることにより、伝統芸能・能楽の普及・振興につなげることができた。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	5	4	12	西宮神社	事業内容の確認及び調整	2	2
			13	西宮能楽堂	広報及び支援協力団体誘致	3	2
			～	西宮能楽堂	チラシポスター要項決定	3	
		5	14	西宮観光協会	チラシポスターデザイン制作	2	
			～			2	
		6	1	西宮観光協会	チラシポスター版下完成	2	
			～		チラシポスター印刷	2	
		6	6	西宮能楽堂	チラシポスター配布	3	2
			～		先行予約開始	3	1
		7	27	西宮神社	舞台打合せ	5	2
			1	西宮能楽堂	舞台進行打ち合わせ	3	2
		7	3	西宮能楽堂	出演者打合せ	3	
			～				
		8	10	西宮能楽堂	一般予約開始	3	2
			18	西宮能楽堂	舞台打ち合わせ	3	1
		8	5	西宮神社	最終会場打ち合わせ	3	3
			6	西宮能楽堂	英語通訳打合せ	3	
8	9	西宮能楽堂	前日準備	3	3		
	10	西宮神社	当日本番	51	202		
8	11	西宮能楽堂	支払い等処理及び報告書作成	3			
	～						
9	8	8	阪神南県民センター	事後報告書提出	3		
目標の達成状況	<p>■地域の公益社団法人西宮観光協会や地域住民にて構成された西宮芸術実行委員会会員、西宮市都市ブランド発信課課員の協力により、当日の受付業務や会場整理業務がスムーズに行われ、事故無くクレームも無く、滞りなく事業を開始及び終了することができた。</p> <p>■入場者数は、狂言「夷毘沙門」公演（200名・内28名招待）ですべての席が完売。完売後も予約申し込みの連絡が前日まであり、兵庫県阪神南地域の新たな魅力となる本事業への関心度は高く、阪神間を中心に県内外及び海外からの来場者が参加し、阪神南地域のかつてのにぎわいの心と、芸術文化から培うことのできる「生きる力」の創出を図ることができた。</p> <p>■「what'sNOH?」能楽講座は、海外からインターネットを通じてアメリカ在住の方が2名参加、また、狂言公演の「スマホで解説」を利用した方は8名でした。2年後に控える大阪・関西万博を視野に入れたインバウンド事業として導入した「スマホで解説」は、初めて能楽に触れる機会となったインバウンドを含む方々に、日本の伝統芸能「能楽（能・狂言）」への理解を深めて頂けた。</p> <p>■2年後に控える大阪関西万博を視野に入れ、まちの活性化につながる事業として、阪神南地域の魅力ある芸術文化を国内外に発信することができた。</p>						

<p>事業効果</p>	<p>参加者総数 202 名（公演参加者 200 名、体験講座参加者 2 名） 阪神南（芦屋・西宮・尼崎）地域内の参加者数 179 名 阪神南地域外の参加者数（国外地域の参加者含） 23 名 関係者総数 52 名 （出演者 16 名、地域スタッフ 17 名、舞台・制作スタッフ 19 名）</p> <p>■本事業の参加者数の内、兵庫県阪神南地域の市民が占める割合が 8.99%となり、本事業が地元市民へ浸透し、阪神南地域での広がりが十分に窺え、かつ阪神南地域に位置する西宮神社で行われた本事業を通して、地域ににぎわいをもたらすことができ、大きな効果を得ることができた。</p> <p>■阪神南地域の企業や住民で組織されたにしのみや観光協会や、同住民で組織された西宮芸術実行委員会の協働により、地域市民と共に事業制作を進めることができた。</p> <p>■インターネット、SNS などを通して、兵庫県阪神南地域の市民だけでなく、広く地域外及び国外へも広報でき、国外 アメリカ からの参加も 2 名あった。地域外の参加者の割合は 11%であったが、問い合わせ及びチケット完売後の申し込みも地域外から多数あり、阪神南地域の西宮神社ゆかりの伝統芸能・狂言を、地域内はもとより、地域外へも広く周知することができ、一定の効果を得ることができた。</p>
<p>補助金交付終了後の事業展開、今後の展望</p>	<p>■兵庫県阪神南地域の他団体との協働事業となるような交流を図り、より多くの地域の人たちを巻き込んだ取り組みにしていきたい。</p> <p>■来年度は、日本の伝統芸能の観劇世代を広げられるスペクタクルな舞台を上演する企画を考えている。</p> <p>■資金面では、事業に賛同して頂ける企業を増加させ、補助金額を少しでも減らしていけるような事業運営をするように努力したい。</p>

事業実施状況を示す写真



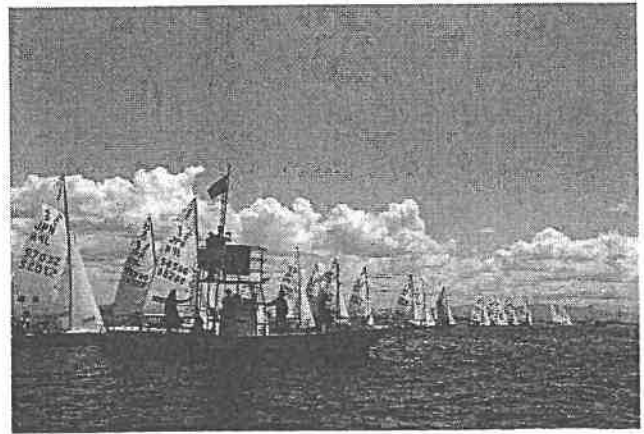
A-6 “海の甲子園”ユースセーリングカップ/海の甲子園実行委員会

活動地域	各都道府県
協働団体	兵庫県セーリング連盟
事業の目的・趣旨	<p>兵庫県阪神南地区は海洋レクリエーションの中心としても発展しており、日本有数のヨットハーバーである新西宮ヨットハーバーがある。しかし、社会人や大学生のヨット競技の大会はあるものの、中・高校生の選手や女性セーラーの育成や目的成長を図るための大会は少ない。本大会は、全国の中・高校生や女性セーラーを対象としたヨットレースを通じて、青少年や女性セーラーの健全育成と交流を図るとともに、セーリング初心者の育成も図っていく。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2023年8月25日(金)～27日(日)にかけて、“海の甲子園”ユースセーリングカップを新西宮ヨットハーバーで開催いたしました。艇種は国際420級、セーリングスピリッツ級、ILCA6級の3艇種でレースを行ないました。大会には古野電気様やヤンマー船用システムの他、8社から協賛を頂戴することができました。 2. 参加者は北陸/石川県、中部/長野県から、九州/鹿児島県まで、21府県・32団体、参加艇数82艇、参加人数127名と前年を大きく上回りました。 3. 8/25は午後から艇の搬入と受付を開始いたしました。8/26の開会式で日本セーリング連盟の馬場会長がご挨拶され、大会がスタートいたしました。 4. 天候は猛暑・晴天で、4～6ノットの順風の中で、26日3レース 27日2レースの合計5レースを行ないました。猛暑であったため、選手・運営スタッフの熱中症対策として、水やOS1、氷を十分に用意し、体調不良者が出た時に備えて空調の効いた控室の準備、医者への救助艇乗艇を行いました。幸いにも体調不良者は出ませんでした。 5. 26日の夜にWEBによるクリニックを開催いたしました。ヨットの技術やノウハウについての、トップセーラーによる具体的な講習会であり、好評を博すことができました。また、26日夕方から激しい雷雨となり移動も難しい状況となりましたが、WEBであったため問題なく進めることができました。 6. 26日夕方にはセーリングスピリッツ級の女性セーラーを対象に意見交換会を開催し、悩みなど率直な意見を出し合いました。 7. 26日・27日とも、県立海洋体育館でヨットに乗る小中学生を対象に観覧艇を出艇させました。父母を合わせて15名程度が乗船し、高校生のセーラーのレースを観戦しました。将来の選手層の強化に繋がると考えます。 8. 27日のレース終了後は選手・運営参加者が合同でハーバーやその周辺の掃除を行ないました。掃除の後、兵庫県南県民センター長様をはじめ、西宮市副市長様、西宮戎ライオンズクラブ会長様等にご参加いただき、県知事賞、神戸新聞社賞 ライオンズ賞など多くの賞が授与されました。 9. レースの内容や結果は、ヨット専門誌「バルクヘッドマガジン」古野電気様ホームページやSNS「海の音」に掲載されました。また、レース風景は専門家により撮影され、その写真は参加選手自身で入手できるようにしました。

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	5	6	6	古野電気	後援・協賛依頼	3	3
			7	ヤンマー	後援・協賛依頼	3	3
		6	16	西宮市勤労会館	運営会議	15	
			7	24	外用内海事務室	運営会議	15
		8	19	学連事務室	大会事前準備	10	
		8	25	新西宮ヨットハーバー	艇搬入整理、受付	10	90
			26	新西宮ヨットハーバー	艇搬入整理、受付	5	70
		8	27	新西宮ヨットハーバー	開会式	44	150
	レース（1～3レース）				44	150	
	8	27	新西宮ヨットハーバー	セーリングクリニック	10	130	
レース（1～3レース）				48	150		
清掃				48	150		
8	27	新西宮ヨットハーバー	表彰式	30	100		
目標の達成状況	<p>参加者は21府県・32団体、参加艇数82艇、参加人数127名と、広範囲となり前年を大きく上回ったことは有意義であった。</p> <p>選手層の裾野を広げるために、小中学生を対象に観覧艇を出艇させ、父母を合わせて15名程度に乗船していただいた。</p> <p>27日のレース終了後は選手・運営参加者が合同でハーバーやその周辺の掃除を行ない、地元貢献にも努めました</p> <p>地域への知名度を上げるために古野電気様の協力も得て、新聞各社への大会開催前のプレス発表を行ない、ヨット専門誌「バルクヘッドマガジン」、古野電気のホームページやSNS「海の音」に掲載されました。</p> <p>目標は達成できたと考えています。</p>						
事業効果	<p>21府県から127名の選手が参加、支援者を含めると160名を越える参加者が集まるその宿泊や飲食も含めると経済効果は極めて高い。</p> <p>またこれらの選手が日本有数のハーバーである新西宮ヨットハーバーで実際にレースをしたことで、今後のハーバーの活性化に繋がる。</p> <p>小中学生のレース観戦により将来の有望選手の発掘に繋がる。</p>						
補助金交付終了後の事業展開、今後の展望	<p>鹿児島国体において本大会の趣旨や参加者数をアピールし、来年以降の参加者の増加に繋げていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況次第ではあるが、参加選手の歓迎レセプション開催についても検討していく。セーリングクリニック（講習会）は好評であり、継続するが、WEBだけでなく会場での開催も検討する。</p> <p>新西宮ヨットハーバーは外部者に対して入場を閉ざしているが、西宮市商工会議所や西宮戎ライオンズクラブと連携して、地元の祭事等との連携ができないか、検討していく</p> <p>今年度試験的に実施した小中学生のセーラーのレース観戦については、来年以降、積極的に呼びかけて、参加者の拡大を図っていく。</p>						

(添付書類)

事業実施状況を示す写真



A-7 西宮の日本酒振興プロジェクト／西宮日本酒振興連絡会

活動地域	西宮市
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>西宮市の地場産品である日本酒の魅力と、それにまつわる酒文化を全国に発信することで日本酒ファン層の拡大を図るとともに、日本酒の新たな魅力を発見できるような話題性のあるイベントの実施や、日本酒のイメージ向上につながる効果的な情報発信を行うことで酒蔵ツーリズムを定着させ、酒蔵地帯への来訪者増加を図り、西宮の経済を活性化することを目的とする。加えて、大阪・関西万博を見据えた企画を実施し、かつフィールドパビリオンに認定されている本地域の酒蔵めぐりを推進することで、大阪・関西万博の機運醸成を図るとともに、フィールドパビリオン自体のブラッシュアップを図るための検討材料とする。</p>
事業内容	<p><対象者> 主に 20 歳以上の大阪～神戸間近隣エリア居住者</p> <p><実施方法及び取り組みの具体的な内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ●西宮の酒蔵めぐりパンフレット発行（秋季、冬季） 季節に合わせたテーマを設定した内容とすることで興味関心を刺激し、さらに有効期間有りの酒蔵関連施設で使用出来るクーポンを付属することで誘客促進を図った。冬季には酒蔵関係施設に加え、酒蔵エリアの飲食店等を含めたスタンプラリー企画を実施し、大阪・関西万博に附する企画の検討材料とした。 【発行部数】 秋季：17,000 部、冬季：15,000 部 ●「ガイドとめぐる酒蔵ミニツアー」の実施（1/28、2/12） 大阪・関西万博を見据え、フィールドパビリオンとして認定されている酒蔵めぐりを、地元ガイド団体の協力のもと有料のツアーとして実施した。 次年度も定期的開催し、ブラッシュアップを図っていく。 【参加者数】 1/28：16 人、2/12：16 人 ※1/28、2/12 ともに Instagram 広告を行い数日で定員 20 名に達した。（両日ともに当日キャンセルあり） ●「日本酒初級講座」の実施（1/25、2/29） 大阪・関西万博に附する企画の検討材料とするため、西宮の独自性を出した日本酒講座を酒蔵関連施設で実施した。なお、当初の計画では初級者向けと中級者向けをそれぞれ 1 回ずつ実施する予定だったが、広報媒体の検証を行うため初級者向け講座を 2 回実施した。 -【参加者数】 1/25：19 人、2/29：14 人 ※1/25 は Instagram 広告を行い広告開始日当日に定員 20 名に達したが、2/29 は広告を行わなかったところ定員 20 名に満たず 16 名応募にとどまる（両日ともに当日キャンセルあり） <p>上記企画を全て同パンフレットで一括に掲載することで、西宮の日本酒の魅力を広く PR し、加えて既存アカウントの SNS (Instagram) を活用し地域外の人に情報を発信した。また、SNS 広告を一方でのみ実施することで、SNS 広告での集客有用性の検証を行い、SNS 広告の有用性を確認した。</p> <p>◇Instagram アカウント名：西宮日本酒部～美味しいお酒とグルメ～ ◇URL : https://www.instagram.com/nishinomiya_nihonshubu/?hl=ja なお、大阪～神戸間近隣エリアに広く PR するため、阪神電気鉄道株式会社、阪急電鉄株式会社での各駅でのポスター掲示による有料での広告を行うとともに、両社にパンフレットの配架等の広報面の協力をいただいた。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	23	7	上旬	市役所会議室	企画会議	12	
		10	下旬	観光協会	パンフレット制作会議(秋号)	4	
		11	中旬		阪神・阪急電鉄広告依頼	1	
		11	下旬		パンフレット発行(秋号)		
		11	下旬		阪神・阪急電鉄・SNS 広告開始		
	24	1	中旬	観光協会	パンフレット制作会議(冬号)	4	
		1	下旬	酒蔵エリア	酒蔵めぐりまち歩きツアー	2	16
		1	下旬	酒蔵関連施設	日本酒講座	4	19
		1	下旬	観光協会	阪神・阪急電鉄広告依頼	1	
		2	上旬		パンフレット発行(冬号)		
		2	上旬		阪神・阪急電鉄・SNS 広告開始		
		2	中旬	酒蔵エリア	酒蔵めぐりまち歩きツアー	2	16
	2	下旬	酒蔵関連施設	日本酒講座	4	14	
目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット有効期間：11月下旬～1月中旬、2月上旬～2月下旬 (8月中旬～9月下旬、11月下旬～1月下旬) ・酒蔵関連施設来訪者数延べ：56,600人(55,000人) ・酒蔵めぐりまち歩きツアー(2回)参加者数：32人(30人) ・日本酒講座参加者数(2回)：33人(40人) ・スタンプラリーユニークユーザー人数：1,572人(1,000人) ※カッコ内は当初の数値目標値						
事業効果	<p>西宮市の地場産品である日本酒の魅力と、それにまつわる酒文化を全国に発信し、日本酒ファン層の拡大を図るとともに、西宮の経済の活性化に繋げた。また合わせて、本事業により酒蔵地帯に一定の集客を行えたため、飲食店等の地域事業者に対する経済的波及効果もあった。</p> <p>市内酒造会社が市や観光協会、商工会議所と一体となって本事業を実施したことにより、酒造業界および酒蔵地帯全体の活性化と、大阪・関西万博の機運醸成を図ることができた。</p> <p>さらに、市民に関しては、本事業が本市の地場産品である日本酒の良さを再確認し、また新たな魅力を発見する機会を創出し、シビックプライドの醸成が図った。</p>						
補助金交付終了後の事業展開、今後の展望	<p>次年度以降も同プロジェクトを継続していく予定。</p> <p>酒蔵めぐりまち歩きツアーについては真夏を除いて5月より月2回のペースで実施が決定している。</p> <p>引き続き、大阪・関西万博の機運醸成を図るとともに、フィールドパビリオンとして認定されている本地域の酒蔵ツーリズムに関するコンテンツのブラッシュアップを図る</p>						

事業実施状況を示す写真



秋号（昼呑み）ポスター掲出



秋号（昼呑み）現場写真



ガイドとめぐる酒蔵ミニツアー



日本酒初級講座



日本酒初級講座



冬号（ちよい呑み）ポスター掲出



ミニツアー・セミナーSNS広告



冬号（ちよい呑み）現場写真

A-8 阪神南インバウンド観光実証実験／西宮まちづくり連携プロジェクト

活動地域	西宮市 尼崎市
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>関西を訪れるインバウンド観光客は京都、大阪、奈良が中心であり阪神南地域への訪問は極めて少ないと思われる。2025大阪・関西万博は、阪神南地域の魅力をアピールする絶好のチャンスである。英語にて日本人大学生が、海外からの観光客を「おもてなし」する。この地域ならではの魅力を知ってもらう。一方、学生にとっても国内において英語のトレーニングとなり、就職活動～社会人に向けて貴重な経験となる。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者 : インバウンド観光客 (今回の実証実験では外国人留学生を対象とした。) 2. 実施方法 : 令和5年9月に西宮へ来日したばかりの外国人留学生を、日本人地元大学生が案内する。阪神南地域の魅力を知ってもらおうと大型観光バスを活用し英語にて案内した。(関西学院大学国際学部教授の指導) 3. 案内ルート : <ol style="list-style-type: none"> A. 上ヶ原文教地区 <ul style="list-style-type: none"> ・関西学院大学、外国人住宅、関学古墳、上ヶ原分水樋を巡った。 B. 神呪寺(甲山) <ul style="list-style-type: none"> ・お参り・おみくじ体験、甲山から大阪平野・万博会場予定地を遠望した。 L. 西宮マリーナにてLUNCH(昼食)～堀江謙一太平洋単独横断出発地 <ul style="list-style-type: none"> ・西宮ヨットハーバーのカジュアル飲食店にて参加留学生同士が国際交流。 C. 酒ミュージアム(白鹿記念酒造博物館) <ul style="list-style-type: none"> ・灘五郷のひとつ西宮郷の酒蔵見学を見学。日本酒づくりについてガイドした。 D. 阪神尼崎のまちあるき <ul style="list-style-type: none"> ・尼崎中央商店街 日本独特の庶民のまちの商店アーケード街を体感。 ・寺町 尼崎城築城に関連して移築された寺町のまちあるきを実施。 ・尼信会館・世界の貯金箱博物館 地域銀行による文化事業を紹介。 4. アンケート調査の実施 <ol style="list-style-type: none"> ①案内施設ポイント毎に参加留学生の印象を5段階にて評価。 ②どういう点に興味・関心を持ったかについて自由意見コメントを英文記述。 5. アンケート調査結果の分析 <p>留学生が阪神南地域の観光資源にどのような興味・関心を示したかを分析。2025大阪・関西万博における阪神南地域としての取組み戦略に反映する。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	5	7	上旬	関西学院大学	外国人留学生担当と調整	1	
		7	下旬	関西学院大学	国際学部教授に協力依頼	1	
		8	13	西宮市立公民館	プロジェクトチーム編成会議	6	
		8	26	阪神尼崎地区、西宮マリーナ	観光資源の把握 昼食場所探し	2	
		9	11	関西学院大学	外国人留学生担当と調整	5	
		9	14	関西学院大学	留学生オリエン時にプレゼンテーションを実施し参加者を募る。	2	
		9	15	西宮・尼崎	スタッフ・リハーサル①	6	
		10	5	関西学院大学	外国人留学生担当と調整	2	
		10	6	西宮・尼崎	スタッフ・リハーサル②	6	
		10	14	西宮・尼崎	阪神南インバウンド観光本番実施 (9:00~17:00)	6	37
目標の達成状況	<p>1. 阪神南地域の魅力スポット5か所を大型バスにて案内したところ、5段階評価にて平均=4.60の高評価が得られた。 → 京都、奈良、神戸などの国際観光都市でなく住宅都市である阪神南地域に外国人が興味を示す魅力スポットが数多く存在することが判明した。</p> <p>2. 神呪寺(西宮)、寺町(尼崎)などの神社仏閣をはじめ、日本独特の庶民的な尼崎中央商店街の賑わいも外国人にとっては初体験であった。「もっと、時間をとってゆっくり楽しんで買物がしたかった。」など関心の高さを示すアンケート調査結果が得られた。</p> <p>3.</p>						
事業効果	<p>参加した外国人は交換留学生であり、そのほとんどが約一年間、阪神南地域に滞在する。このバスツアー体験は自分たちが居住する「阪神南地域の魅力」を知るチャンスであったと思われる。またスタッフ参加した国際学部の日本人学生、ツアーをサポートしていただいた各施設の方々との交流も出来た。</p> <p>2025大阪・関西万博に「家族や友人とともに訪れたい。」という留学生が、87.5%もいたという調査結果が得られたことも成果のひとつであった。</p>						

補助金交付
終了後の事
業展開、今
後の展望

(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)

今年度は阪神南地域の観光ポイントとして西宮・尼崎市内の観光スポットを案内した。事前調査により英文ガイドマニュアルを作成し、2度にわたるガイドリハーサルを実施した。本番では外国人留学生37名の高評価を得ることが出来た。

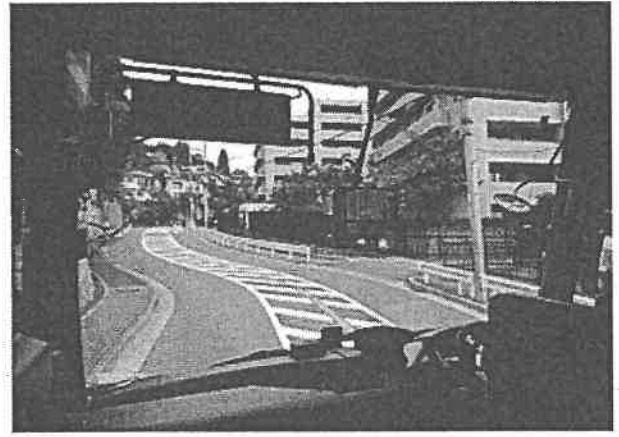
今年度、案内できなかった旧甲子園ホテル、旧山邑邸、神戸女学院キャンパスなど阪神間モダニズムを象徴する建築物、さらに甲子園球場、新西宮ヨットハーバーなどの臨海部スポーツ・レジャー施設についても継続して調査してゆきたい。

これらを2025年万博本番時に阪神南地域の活性化に生かす工夫が重要である。

事業実施状況を示す写真



関学周辺のまちあるき(分水樋)



大型チャーター・バスにて甲山(神呪寺)へ向かう



グループ単位に本殿前にて記念撮影



寺社での日本の慣習(おみくじ)を实践



日本酒づくりの工程・道具類について学ぶ



桶(おけ)を天秤棒にてかつぐ実体験

A-9 西宮浜まちじゅうミュージアム2023/西宮浜観光社

活動地域	西宮市
協働団体	西宮浜義務教育学校、 神戸女学院大学 地域創りリーダー養成プログラム 西宮浜班
事業の 目的・趣旨	「エコ・ミュージアム」(フランスの博物館学者アンリ・リヴィエールが提唱した、まち全体を一つのミュージアムと見立て、文化・芸術・歴史・自然など地域の魅力を活用し発展を促す試み)の概念をもとに、西宮浜の地域資源であるパブリックアート、広場、ストリートなどを活用した住民交流イベント等を開催し、まちの歴史や魅力を発信し、地元住民とりわけ西宮浜で育った若い世代の人達の「故郷としての西宮浜」への愛着と誇りを高め、西宮浜の定住促進に貢献します。
事業内容	<p><主催></p> <p>1 「西宮浜まちじゅうミュージアム散歩2023」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2023年10月8日(日)14時～16時 ・場所：西宮浜一帯 ・内容：西宮浜に点在する、世界の4大アーティストに選ばれた具体芸術活動の中心人物の一人である嶋本昭三作「平和の証」、世界的な彫刻家であるアンソニー・カロ作の「プール」、日本を代表する彫刻家である福嶋敬恭作の「宇・宙の詩」、日本を代表する絵本作家・画家である元永定正作の「あめかぜてんき」などのパブリックアートと、桜並木、パセオ・パセオサイン、音楽広場、アートストリートなど住民交流のための様々な仕掛け、安藤忠雄建築である西宮市貝類館・西宮浜公民館を紹介。 ・参加人数8名、運営スタッフ11名(神戸女学院大学西宮浜班5名、西宮浜観光社6名) <p>2 「西宮浜義務教育学校就学説明会連携 西宮浜のまちの魅力ご紹介ツアー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2023年10月28日(土)15時～16時 ・場所：西宮浜一帯 ・内容：同日に開催された西宮市立西宮浜義務義務教育学校の就学説明会(2024年4月入学対象)に参加された保護者・児童を対象に、西宮浜の景観、街路樹、公園・広場・小径、防災などの西宮浜のまちの魅力について、まちあるきをしながら紹介。 ・参加人数10名、運営スタッフ数3名(西宮市1名、西宮浜観光社2名) <p>3 「100年続けるアート「平和の証」/瓶投げアート制作@西宮浜まちじゅうミュージアム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2023年11月25日(土)13時～14時 ・場所：新西宮ヨットハーバー「平和の証」 ・内容：新西宮ヨットハーバー内にある嶋本昭三作のパブリックアート「平和の証」において、株式会社シマモト・ラボ、新西宮ヨットハーバー株式会社、Art Unidentifiedの協力により、西宮浜義務教育学校の児童が参加して、コンクリート製のキャンバスに、絵の具を入れた瓶を投げつけて絵を描く「瓶投げアート※」を実施。(※ 世界の4大アーティストにも選ばれた嶋本昭三氏が「この取り組みが100年続けば世界は平和であった証になる」との想いで1999年から始めたアート活動。)

- ・参加者数 53 名（西宮浜義務教育学校児童 19 名、一般観覧者 34 名）、運営スタッフ 19 名（シマモト・ラボ 12 名、西宮浜義務教育学校教員 2 名、西宮浜観光社 4 名、ベイコム 1 名）

3 西宮浜みりよく発見ラリー！

- ・日時：2023 年 11 月 25 日（土）11 時～15 時
- ・場所：西宮浜一体
- ・内容：西宮浜を散策して、パブリックアートや施設についてのクイズに答えながら、西宮浜のまちの秘密と魅力を知っていただくウォークラリーイベント。神戸女学院大学地域創りリーダー養成プログラム西宮浜班の企画・運営。参加者には、西宮市の共生型地域交流拠点「はま café マリナふらっと」（西宮浜 4 丁目）の利用者と西宮浜班と一緒に作ったランタンをプレゼント。
- ・参加者数 45 人、運営スタッフ 7 名（神戸女学院大学西宮浜班 5 名、西宮浜観光社学生 2 名）

4 西宮浜あめかぜてんきカフェ「ORIGIN」

- ・日時：2023 年 11 月 25 日（土）11 時～15 時
- ・場所：元永定正作「海・あめかぜてんき」横
- ・内容：「西宮マリナパークシティ海のまち」（西宮浜 4 丁目）の住民有志が結成した珈琲バリスタチーム「ORIGIN」が、挽きたてのコーヒーやスイーツなどを提供し、近所の友人や同級生が集い、交流を深めるカフェイベント。
- ・参加人数 76 人、運営スタッフ 5 名（ORIGIN 3 名、西宮浜観光社学生 2 名）

5 西宮浜はみんなのふるさと！文部省唱歌「故郷」合唱@光のツリー点灯式

- ・日時：2023 年 11 月 25 日（土）17 時 30 分～18 時
- ・場所：西宮マリナパークシティ海のまち
- ・内容：西宮マリナパークシティのまちびらき 25 周年を記念し、「西宮マリナパークシティ海のまち」で開催された「第 26 回 光のツリーの点灯式」にジョイントする形で、点灯後に、新たな 25 年の始まりを祝う点灯式のフィナーレとして、「海のまち」を故郷にしていく思いを込めて住民による文部省唱歌「ふるさと」（高野辰之作詞・岡野貞一作曲）の合唱を開催。合唱に際し、神戸女学院大学音楽学部音楽学科長の松本薫平先生の指揮により、音楽学部の声楽専攻の学生 3 名と、事前に西宮浜公民館で行われた練習会に参加した住民有志や西宮浜のコーラス部が歌声を披露。
- ・参加者数 200 名、歌唱スタッフ 25 名（神戸女学院大学音楽学部 4 名、神戸女学院大学西宮浜班 5 名、西宮浜コーラス部 13 名、ORIGIN 3 名）、運営スタッフ 5 名（西宮浜観光社）

6 光のツリー点灯式「故郷」合唱 事前練習会

- ・日時：2023 年 11 月 18 日（土）16 時～17 時
- ・場所：西宮浜公民館第 3 集会室
- 11 月 25 日（土）の「第 26 回 光のツリー点灯式」での「故郷」合唱に先立ち、神戸女学院大学音楽学部音楽学科長の松本薫平先生の指導により、文部省唱歌「ふるさと」（高野辰之作詞・岡野貞一作曲）合唱の練習会を開催。当日は、海のまちの管理組合役員、西宮浜コーラス部、いるぴースターズメンバーが参加。声楽専攻の学生 1 名の歌唱を手本に、松本先生から、高音パートと低音パートに分かれ、歌唱法や発声法についての指導あり。
- ・参加者数 11 名、指導スタッフ 2 名（神戸女学院大学音楽学部）、運営スタッフ 1 名（西宮浜観光社）

7 「西宮浜まちじゅうミュージアム作品ガイドブック2023」(電子書籍)の制作・公開

・ロマンサーのシステムを使用して、西宮市の最南端の海辺の住宅エリアである「西宮浜マリナパークシティ」に点在する世界的に著名な彫刻家によるパブリックアートと住民交流のためのまちづくりのしかけを、西宮マリナパークシティにおけるまちづくり活動である「西宮浜まちじゅうミュージアム」の取組と共に紹介。

・2023年12月31日に、西宮浜観光社Facebookページで公開。

https://romancer.voyager.co.jp/ext/wp_read.php?post=329921&cid=1_329921_16122023115157&mode=v&a=7z4laliq

・発信対象者 208名

<告知・連携>

1 2023年8月2日(水)に、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会「TEAM EXPO2025」の「共創チャレンジ」へ登録。

・西宮浜まちじゅうミュージアムの活動内容を情報発信。

<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/1300>

・各イベントを情報発信。

西宮浜まちじゅうミュージアム散歩2023

<https://team.expo2025.or.jp/ja/event/579>

11月25日(土)開催イベント

<https://team.expo2025.or.jp/ja/event/672>

2 西宮阪急(阪急百貨店)・古野電機・JIBが主催する地域活動「GOOD GROOVY NISHINOMIYA」との連携

・2023年9月9日(土)に開催された同活動のキックオフイベント運営に協力。阪神西宮周辺～香露園浜～西宮浜でのGPSウォーク&ゴミ拾いへの参加と西宮浜総合公園センターハウスでの交流会で、西宮浜まちじゅうミュージアム2023の活動内容を発信。

・参加者数 68名(GPSウォーク&ごみ拾い28名、交流会40名)

※ 西宮つーしんでの紹介記事

<https://nishi2.jp/238034/>

3 まちたびにしのみや2023の公式プログラム化

・西宮浜まちじゅうミュージアム散歩2023を、西宮観光協会のまちたびにしのみや2023の公式プログラム化いただきました。

https://machitabi.jp/entry/detail.aspx?item_code=23-A&season_name=2023

4 さくらFM「つながれ!スタジーマ」での情報発信

・2023年10月17日(火)生放送「つながれ!スタジーマ」(17:30~17:50)に出演し、活動内容と11月25日(土)開催の各イベントを告知。

※ さくらFM Facebookページでの紹介投稿

https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=pfbid02kGHSpL19mN5vMveZgfzxCzNcdFVf2PbahhDWw7dWvCEvaUNiRrLEw4nKXxvFog31&id=100063609341626

5 「阪神地域みらいづくりフォーラム」への登壇

・11月12日(日)開催の阪神南県民センター・阪神北県民局主催「阪神地域みらいづくりフォーラム」(宝塚西公民館)に登壇し、活動発表と阪神地域で地域課題の解決や地域活性化に向けた取組を積極的に行っている団体と地域における協働についてのパネルディスカッションを実施。参加者約60名。

※ 兵庫県チラシ

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/hnk02/vision/documents/chirashi.pdf>

6 兵庫県阪神南県民センター様の X (旧 Twitter) で、瓶投げアートについて発信

・12月11日に、「100年続けるアート「平和の証」/瓶投げアート制作」について、発信をいただきました。

https://x.com/hanshinm_hyogo/status/1734122280048029978?s=20

6 CATV市広報番組「フロムにしのみや」(2023年12月11日放送分)で西宮浜まちじゅうミュージアムの活動を紹介

「art × 防災のまち 西宮浜」(12月18日発信)

<https://youtu.be/c8tf9sG02JM?si=y3u9FgepP6XlYmyY>

7 神戸女学院大学からの発信

・神戸女学院大学人間科学部 ESD 推進室より、神戸女学院大学 WEB サイトで、連携取組を発信いただきました。

さくら FM に地域活性化総合実習受講生が出演します(10月17日放送)

<https://h.kobe-c.ac.jp/chiiki/fm1017>

西宮浜まちじゅうミュージアム 2023 に 16 期生西宮浜班が参加します

<https://h.kobe-c.ac.jp/chiiki/2023-11-20>

8 地域メディアでの発信

・以下の地域メディアにて、11月8日(日)や11月25日(土)開催の各イベント、西宮浜まちじゅうミュージアム 2023 の活動内容を告知・情報発信いただきました。

●ベココミュニケーションズ 週刊 Bay ニュース 12月1日~12月7日放送分
「新西宮ヨットバーバー 瓶投げアートに地域の小学生が参加」

※ ベココムアプリをダウンロードで視聴可。

●西宮流

10月8日(日): 西宮浜まちじゅうミュージアム散歩 2023

<https://nishinomiya-style.jp/blog/2023/10/03/49570>

11月25日: 西宮浜まちじゅうミュージアム 2023 開催

<https://nishinomiya-style.jp/blog/2023/11/23/52200>

●西宮さんぽ ご近所情報

2023年10月8日(日)に西宮マリナパークシティで「西宮浜まちじゅうミュージアム散歩 2023」が開催されます。

<https://www.nishi-city.com/entry/2023/10/04/131804>

2023年11月25日(土)に「西宮浜まちじゅうミュージアム 2023」が開催されます。

<https://www.nishi-city.com/entry/2023/11/25/130034>

●西宮つーしん

西宮浜で「ひかりのツリー 点灯式」やるみたい。

<https://nishi2.jp/243628/>

●Kiss PRESS

点在するパブリックアートたちを見て回ろう！

西宮の施設で「西宮浜まちじゅうミュージアム散歩 2023」開催

<https://kisspress.jp/articles/44455/>

9 その他の広報活動

- ・西宮浜の各まちの各棟でのチラシの掲示及び各住戸への配布（約3,000部）を行いました。
丘のある街、海のまち、杜のまち、花のまち、港のまち、桜のまち
- ・チラシについて、西宮浜内各施設での掲示をお願いしました。
西宮浜義務教育学校、カフェふらっと、コープマリナパーク、ニチャク薬局、西宮浜郵便局
- ・西宮観光協会様にご協力をいただき、西宮市内の観光案内所でのチラシの配架をお願いしました。

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	23	5	16	スタジモにしのみや	※神戸女学院大学西宮浜班との顔合わせ(事業期間対象外)	11	-
	23	8	2	全国	□公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会「TEAM EXPO2025」の「共創チャレンジ」へ登録。	-	-
	23	9	9	香露園浜～西宮浜	☆地域活動「GOOD GROOVY NISHINOMIYA」への協力	2	68
	23	10	1	西宮浜一帯	※神戸女学院大学西宮浜班の現地見学	10	-
	23	10	8	西宮浜一帯	★西宮浜まちじゅうミュージアム散歩 2023 (まちたびにしのみや 2023 プログラム)	11	8
	23	10	28	西宮浜一帯	★西宮浜義務教育学校就学説明会連携 西宮浜のまちの魅力ご紹介ツアー	3	10
	23	10	17	さくら FM	☆「つながれ! スタジモ」出演	4	-
	23	11	12	宝塚西公民館	☆阪神地域みらいづくりフォーラム登壇	1	約 60
	23	11	18	西宮浜公民館	★光のツリー点灯式「故郷」合唱 事前練習会	3	11
	23	11	25	新西宮ヨットハーバー	★100年続けるアート「平和の証」/瓶投げアート制作@西宮浜まちじゅうミュージアム	19	53
	23	11	25	西宮浜一帯	★西宮浜みりよく発見ラリー!	7	45
	23	11	25	海・あめかぜてんき	★西宮浜あめかぜてんきカフェ「ORIGIN」	5	76
	23	11	25	西宮マリナパークシティ海のまち	★西宮浜はみんなのふるさと! 文部省唱歌「故郷」合唱@光のツリー点灯式	30	200
	23	12	31	オンライン	★「西宮浜まちじゅうミュージアム作品ガイドブック 2023」(電子書籍)の制作・公開	1	208

※ 準備活動
★ 主催
☆ 連携・告知活動

<p>目標の 達成状況</p>	<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<ガイドツアー> 西宮浜まちじゅうミュージアム 2023、西宮浜義務教育学校就学説明会連携 西宮浜のまちの魅力ご紹介ツアー → 参加者数 <u>実績 18名<目標 30名></u> ・<アートイベント> 「100年続けるアート「平和の証」/瓶投げアート制作@西宮浜まちじゅうミュージアム」 → 参加者数 <u>実績 53名<目標 30名></u> ・<フリーマーケット等> 「西宮浜みりよく発見ラリー!」、「西宮浜あめかぜてんきカフェ『ORIGIN』」 → 参加者数 <u>実績 121名</u> (「西宮浜みりよく発見ラリー!」: 45名、「西宮浜あめかぜてんきカフェ『ORIGIN』」: 76名 <u><目標 100名></u>) ・<ライブイベント> 西宮浜はみんなのふるさと! 文部省唱歌「故郷」合唱@光のツリー点灯式、光のツリー点灯式「故郷」合唱 事前練習会→ 参加者数 <u>実績 211名</u> (合唱 200名、事前練習会 11名) <u><目標 100名></u> ・<西宮浜まちづくり&アート解説資料(デジタル提供)> 「西宮浜まちじゅうミュージアム作品ガイドブック2023」(電子書籍) → 案内先 <u>実績 208名<目標: 100名></u> <p>【審査委員による助言】</p> <p>助言1: 西宮浜の街並みは、前と比べると良くなっており、活動の努力が認められる。今後も頑張ってもらいたい。</p> <p><回答> ・ありがとうございます。引き続き、西宮浜の魅力向上につながる取り組みを進めます。</p> <p><結果> ・助言を真摯にうけとめ、活動を行いました。</p> <p>助言2: 大阪、関西万博に向けて、域外からの交流を促進するために、①本事業区分(万博)をふまえた内容が希薄なため、取組み内容について工夫すること(1つ以上)、②SNS等を活用し、地域外の人へ情報を発信すること。</p> <p><回答> ・本活動を公益社団法人2025年日本国際博覧会協会による「TEAM EXPO2025」 https://team.expo2025.or.jp/の「共創チャレンジ」に登録して、同登録団体・活動との連携をはかりながら、大阪万博の機運醸成につなげる。 ・ガイドツアー等について、西宮観光協会主催の「まちたびにしのみや2023」におけるプログラム化を行い、西宮浜外への情報発信と西宮浜外からの集客を強化する。 ・西宮阪急(阪急百貨店)・古野電機・JIBが主催する地域活動「GOOD GROOVY NISHINOMIYA」に参画し、西宮浜外への情報発信を強化する。 ・既存のfacebookページに加えて、インスタグラムでの発信、さくらFMなど地域メディアでの情報発信に取り組む。</p>
---------------------	---

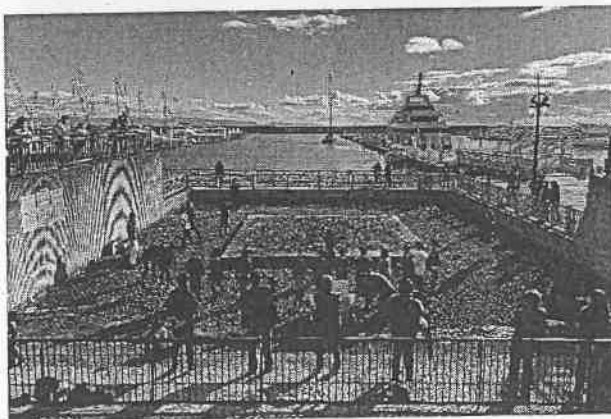
	<p><結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会による「TEAM EXPO2025」の「共創チャレンジ」に登録しました。2023年7月21日開催のEXPO酒場梅田店に参加し、登録団体との連携交流を図りました。 ・西宮浜まちじゅうミュージアム散歩2023について、まちたびにしのみや2023プログラム化を行い、西宮浜外への情報発信と集客を強化しました。 ・西宮阪急（阪急百貨店）・古野電機・JIBが主催する地域活動「GOOD GROOVY NISHINOMIYA」に参画し、西宮浜外への情報発信を強化しました。 ・さくらFM「つながれ！スタジーマ、CATV市広報番組「フロムにしのみや」、ベイコミュニケーションズ 週刊Bayニュース、西宮流、西宮つーしん、西宮ご近所情報、Kiss PRESS、神戸女学院公式サイトから、地域外の人へ情報を発信しました。（インスタグラムは今後の課題となりました。） <p>助言3：事業実施にあたり、目標を設定し、効果測定を行うこと。 (対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施する各取り組みにおいて、①総参加者の半数以上を域外からの参加とすること、②西宮浜住民の参加者の半数以上について、西宮浜への愛着を高めることを目標とします。 ・アンケートの実施により上記2つの目標の効果測定を行います。 <p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回答者（36名）での、西宮浜外からの参加者の割合は31%に留まっておりますが、各連携活動での参加者はほとんどが域外であり、各告知活動での情報発信による効果も勘案すると、総参加者の半数以上を域外参加とする目標は概ね達成できたと推定しております。 ・西宮浜住民に限定したアンケート回答者（25名）では、全員が参加イベントについて「とても満足」ないしは「満足」と回答し、今後もイベントに参加してみたいかの問いについても全員（回答者13名中13名）が参加したいとしており、フリーコメントにおいても、西宮浜の魅力度を再認識した回答が多いため、西宮浜住民の参加者の半数以上について西宮浜への愛着を高めることは概ねできたものと推定しております。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮浜義務教育学校の児童・生徒及び西宮浜住民の「西宮浜」への愛着を高め、25年の歴史しかない「西宮浜」において「ふるさと」の意識の醸成を行うことができました。 ・地域メディア露出も多く、西宮市民に「西宮浜」のまちの魅力を知ってもらうことができました。 ・西宮浜のまちづくりの拠点でもある西宮浜義務教育学校への入学者誘致に協力できました。 ・シマモト・ラボ、「GOOD GROOVY NISHINOMIYA」（西宮阪急（阪急百貨店）・古野電機・JIB）、神戸女学院音楽学部などの新たな連携先が増えました。 ・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会による「TEAM EXPO2025」の「共創チャレンジ」に登録することで、今後の大阪・関西万博の機運醸成のための基盤を構築できました。

補助金交付
終了後の事
業展開、今
後の展望

(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)

- ・引き続き、シマモト・ラボほか西宮浜のパブリックアートの作家の方々や関係者の方々との連携を行いながら、西宮浜住民とりわけ西宮浜の児童・生徒の「西宮浜」への愛着と「西宮浜」における「ふるさと」の意識の醸成につながる、アートイベント、ライブイベント、マルシェイベント、フリーマーケットイベントなどの取組を企画・実施します。
- ・西宮市教育委員会・西宮浜義務教育学校、神戸女学院大学、西宮観光協会、西宮若者応援BANK、「GOOD GROOVY NISHINOMIYA」(西宮阪急(阪急百貨店)・古野電機・JIB)などの連携も推進します。
- ・「TEAM EXPO2025」の「共創チャレンジ」を基盤とした活動を拡充します。
- ・1970年の大阪万博でも紹介された「具体」芸術活動の中心人物である嶋本昭三氏などが創作した西宮浜のパブリックアートを活用した取組は、大阪・関西万博の機運醸成に資する取組みになっていくと考えており、兵庫県の「具体」芸術活動を紹介する万博関連事業に協力してまいります。

事業実施状況を示す写真



A-10 野菜が飛び出したら、パンが降ってきた！ / フライパン

活動地域	芦屋市
協働団体	JR 西日本アーバン開発株式会社 ヒヨリプロト ISUZU ベーカリー
事業の 目的・趣旨	<p>阪神南地域は、パンの街と言われるほどパン屋さんの激戦区でもあり、パン関係のスクールやイベントが沢山行われています。特に芦屋市は有名パン屋が多く、パン目的で観光に来る人もいます。一方で阪神南地域から、スグにいける兵庫北部には農家も多く、当団体でコロナ前から兵庫北部の農家を中心としたファーマーズマーケットを芦屋市で開催してきました。その中で見えてきた農家の食品ロスの問題をパン屋さんとのコラボで解決することを目的とします。</p> <p>昨今のパンブームの高まりもあり、阪神南地域のパン屋巡りにも興味を持ってもらうことで、地域間交流や阪神南地域の観光地ブランド強化に寄与できると考えています。</p>
事業内容	<p><取組みの具体的な内容> 兵庫県下の農家とパン屋のコラボパンのイベント開催 (食品ロスになる可能性の高い野菜で新しいパンレシピの開発・販売) 場所：多目的ホール「アキノバ」(JR 芦屋駅)</p> <p>詳細： 万博をふまえて、「未来社会のデザイン」を意識し、ソーシャルウェルビーイングの一環として、フードロス削減をテーマにしたカフェを運営した。 兵庫県各地の農家とパン屋にて協力してコラボパンを企画・販売した。 また、イベント会場では、兵庫野菜とパンを使用した軽食(オープンサンド等)の販売やパン作りのワークショップを通して、調理食材、兵庫野菜・果物の魅力を伝えた。</p> <p>対象者：関西近郊(各種 SNS にて地域外へ情報発信) 実施方法等： <事前> ・農家、パン屋へ開催事項の説明・調整(食品ロス対応パンの制作) ・会場アキノバとの調整 ・関係者へ集客についての案内・周知 ・広報、 SNS 広告の作成 <当日> ・会場設営 ・ボランティアスタッフへの役割説明 ・ワークショップ準備・実施 ・来場者の誘導・案内 <事後> ・YouTube に当日動画をアップ</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	5	6			出店農家・パン屋への声掛け	1	
	5	7			WEB 広告作成	1	
	5	7			会場のレンタル申請	1	
	5	8			SNS 広告スタート	1	
	5	9	16		準備	5	
			9	17	イベント実施 1 日目	8	300
			9	18	イベント実施 2 日目	8	300
	5 6	10 2			動画作成・アンケート集計 Youtube に動画アップ完了	1 1	
目標の 達成状況	<p>①開催回数：1回（2日間）>達成 予定通り開催</p> <p>②参加目標人数：屋内 600 人 >達成 600 人程度の集客</p> <p>③うちワークショップ参加者 150 人程度 >達成 50 組 3 人 = 150 人</p>						
事業効果	<p>「好きなもの」を通して「農」「食」「兵庫の魅力」を知ってもらうことで、より「触れたい」「訪れたい」気持ちが高まり、観光人数の増加が考えられます。</p> <p>食材の知識・生産者の話やワークショップを通じて、食育や地産地消、環境意識についての変化が期待できます。</p> <p>また、実際の調理法を見たり体験することで、自分でも兵庫野菜でなにかを作りたいというきっかけになることを想定しています。</p> <p>来場者にアンケートを行い、意識の変化について効果測定を行いました。</p>						
補助金交付 終了後の事 業展開、今 後の展望	自主事業として展開する予定。						

事業実施状況を示す写真



検索



20230918野菜が飛び出したらパンが降ってきた



sosuke yokoyama
チャンネル登録者数...

アナリティクス

動画の編集



共有

プロモーション



0回視聴 2024/02/01

<野菜が飛び出したらパンが降ってきた>

そもそも「食品ロス」を出さない仕組みの中で、それでもちよっぴり出ちゃった「ロス」について取り組み。

<ヒラクパンとは>

知らない人でも、知り合いでも、みんなで一緒にパンをつくれれば仲良くなっちゃうかも！パンからひらかれるコミュニティづくり。



A-11 フクマチ-服でまちは福が来る-/fumugu

活動地域	芦屋市
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>アップサイクルを行なっている講師を招き講座を開催することで、参加者に関心を高めてもらうことを目的とします。</p> <p>また、アップサイクルファッションショーやワークショップ等のイベントを開催し、リサイクル、アップサイクルの機会づくりと、洋服を長く使える方法を体験してもらい洋服の廃棄ロスを減らすことを目的とします。特に子ども服は、一人っ子やサイズが合わなくなった、時期を逃したなど綺麗な状態で手放すことが多い衣類であるものが多く、必要な人へ循環させる仕組みをつくり地域に定着させることを目指しています。</p> <p>定期的にリサイクル・アップサイクルイベントを行い認知を高めることで域外からの交流を促進するにぎわいをつくり、大阪・関西万博開催時に芦屋にも足を運んでもらえるよう機運醸成を図ります。</p>
事業内容	<p>1. アップサイクルイベント (10/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップサイクルファッションショー イベントの1ヶ月前からインスタグラムで広告を打ち県外にも情報を発信。投稿も毎日行い、イベントへの関心高めるとともにファッションショーの参加者を募った。 当日は10人のキッズモデルがアップサイクル衣装を見に纏い、アップサイクルファッションショーを行った。 >使用した余り服:28着、アップサイクル服:17着 ・アップサイクルワークショップ3つ <ul style="list-style-type: none"> ① 企業から提供頂いた在庫生地を使ってつくるオバケポシェットづくり ② 切れ端生地を使ってつくるキャンディレイづくり ③ 余り生地を使ってつくるブレスレットづくり >ワークショップ参加者数:50人 ・服の交換会 イベントまでに集めた着なくなった服を次の必要とする人へ繋いだ。 >繋いだ服の数:87着 >広告のリーチ数:15,090人、毎日投稿の平均リーチ数:480人 <p>2. アップサイクル講座(2/25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションショーでも生地の提供をしていただいた、着物生地をアップサイクルするブランド tomorrow fabric の for Tomorrow 株式会社代表取締役田岡久美子さんをお招きし、インスタグラムにてアップサイクル講座のライブ配信で行った。当日見れなかった人にはアーカイブも残し、より多くの人に見てもらえるようにした。 >ライブ配信を見た数:22人再生数353回、リーチしたアカウント183人

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数			
						スタッフ	参加者		
事業経過	R5	8	30	カフェ	運営会議	5	約 300		
			9	メンバー自宅	〃	4			
			11	カフェ	チラシデザイン打合せ	3			
			27	〃	イベント打合せ	4			
			10	2	カフェ	〃		3	
				3	オンライン	設営打合せ		2	
			R6	2	8	JR 芦屋駅前 広場		〃	3
					22	〃		〃	8
					16	カフェ		講座打合せ	3
					23	オンライン		〃	3
25	〃	アップサイクル講座			3				
26	〃	アーカイブ配信			1				

目標の
達成状況

アップサイクルファッションショー、ワークショップ共に参加希望者が予想を上回り準備している数が足りなくなるほどだった。

服の交換会に関しても9割の服が次の必要とする人の元へ繋ぐことができ、地域での需要を感じた。

アップサイクル講座オンライン配信は、リアル・アーカイブともに予想の2倍の人に見てもらい関心を持ってもらえた。

事業効果

ファッションショーの衣装は日常でも着ることができるデザインにしてもらい、1度だけ着て終わりにならないよう工夫した。着れなくなった服をアップサイクルしてさらに楽しめる方法を体験してもらえ、「次に着れなくなったらやってみる!」「お友達にも教えてあげる!!」との嬉しいお声もいただけた。

今まで行っていたようなリアル講座だと子どもの予定や仕事などがあり参加できないとの声が多くあった。今回は思い切って配信での講座にしたが、時間の調整がつけやすかったとのことで予想を上回る参加者だった。アーカイブでもより多くの人に見てもらうことができ、アップサイクルについて知ってもらうことができた。

補助金交付
終了後の事業
展開、今後の
展望

ファッションショー、ワークショップ、交換会どのコンテンツも参加者は多く、今後もしてほしいとの要望が多かったため、継続していきたい。

当団体のターゲットと相性が良いSNSでの講座や情報発信に関しても、経費も抑えられるメリットもあり、継続していきたい。

資金面では、参加費の見直しや企業協賛などを行い、補助金に頼らない事業運営ができるようにしたい。

事業実施状況を示す写真



子供も大人も楽しめる
ちょっと早い

ハロウィン パーティー

10.22(土) 13:00-16:00
JR芦屋駅前広場

B-1 「老いを楽しく生きる知恵を学ぶ」／潮江幸齢者ふれあいサロン

活動地域	1 (尼崎市)市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：西宮市：芦屋市：伊丹市：三田市：大阪市：他)
協働団体	
事業の目的	① 毎月2回～3回、定期的に集会を開催し、生活の中にリズムとメリハリを持たせることより、高齢でも元気に活躍している人に出会いことで、生き甲斐を見出だすとともに認知症予防の一助となる。 ② 会員相互の相互扶助を高め、困った時に助け合うネットワークの構築。崩壊しつつあるコミュニティに変わるもととして機能している。
事業内容	<p>潮江幸齢者ふれあいサロンの事業</p> <p>I サロンとしての事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人の活動内容の発表の場の提供 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自論を発表する。 (2) 自分の研究テーマを発表する 源氏物語の研究・郷土史の研究・民族学の研究など (3) ボランティア活動を発表する 2. 趣味の世界の活動を発表する <ol style="list-style-type: none"> (1) ミニコンサートの場の提供 3. 社会見学会の実施 <ol style="list-style-type: none"> (1) オペラ鑑賞会の開催 4. 自分史など作成支援事業 <ol style="list-style-type: none"> (1) 随想集・短歌集・写真集作成支援 5. 尼崎市活性化のための各種提言事業 <ol style="list-style-type: none"> (1) 尼崎市全市公園化構想の提案 (2) 尼崎城を中心とした観光事業の促進提言 (3) 尼崎東部と大阪夢洲の橋建設事業の提案 <p>II 支援共催事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 短歌個性阪神 (毎月第3土曜日開催) 2. 川柳サロンはなみずき (毎月第3土曜日開催) 3. 尼崎を美しくする会 (随時) 4. 自彊術体操教室 (毎月第1・第3月曜日開催) 5. スマホ実践講習会 (本年度から開催) (毎月第1・第3水曜日開催)

	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
実施経過					別紙添付資料の通り		
目標の達成状況	<p>① 新しい参加者がある反面、死亡したり認知症のため施設に入る会員が増えている。集会に参加することに生きがいを見出した会員も多くいる。その意味でこの会の存在価値の高さを改めて認識している。</p> <p>② 歴史（尼崎の魅力など）・文学（源氏物語など）・考古学（日本の文化など）の講話を聞いてライフワークを見直す機会になっている。</p> <p>③ 会員の相互扶助の精神が高まり、スマホのラインなどを活用し、お互いの安否情報を確認する輪が広がっている。</p>						
事業効果	<p>① 参加者が会の楽しさを知人や友人に紹介してくれるため、各界の多様な方の参加が増えた。</p> <p>② 他の団体との交流も増えて、存在感が益々大きくなった。</p> <p>③ 講話を聞いてライフワークが広がったとの意見を沢山聞いている。</p> <p>④ ネットワーク作りにより、相互の安否確認ができ、安心感が持てるようになったとの会員の意見が多く寄せられている。</p>						
補助金交付終了後の事業展開、今後の展望	<p>（次年度以降どのように事業を展開（継続）していくのかご記入ください。）</p> <p>① 尼崎城の活用するための機関として、青山家顕彰文化財団の設立の検討を進める。現在、篠山鳳鳴高校が管理している江戸時代の篠山青山家が収集した「青山文庫」の尼崎市への移管の検討をいいるが、当主の病気もあり、次年度以降に元持ち越すことになった。</p> <p>② 詩吟を尼崎市で広めるため、同好会や詩吟教室の開催の検討を進めてきたが指導者との調整がつかずこれも持ち越しとなっている。</p> <p>③ 尼崎市への各種提言機関としてシンクタンクの機能を深め、各種提言を行っているが、尼崎市の消極的姿勢のため前に進む事例はすくない。今後も、積極的な提言をしていきたい。</p>						

事業実施状況を示す写真。

〔令和5年度〕阪神南ふるさとづくり応援事業：実施行事内容（No.1）

（別紙4-1）

No.	実施日	集会名	講話	講題	講師	師名	スタッフ	参加数	備考
01	4月11日（火）	第1回集会	「第1回」懇談会 — 新年度の抱負をかたる— — 会員から今年の想いを話する—	—	真言宗 春名 竜太 氏	阿闍梨（淑明） 春名 竜太 氏	8	15	
02	4月18日（火）	第2回集会	「日本人の死生観」 — なぜお経を詠むか—	—	元尼崎市立七松小学校長 高田 昌子 氏	阿闍梨（淑明） 春名 竜太 氏	8	19	
03	5月9日（火）	第3回集会	「第5回」私の源氏物語 — 「葵」第九帖—	—	芦屋市いきいき塾代表 落海 武 氏	元尼崎市立七松小学校長 高田 昌子 氏	7	15	
04	5月23日（火）	第4回集会	「シンブルライフの薦め」 — 高齢社会を楽しく生きる—	—	スマイルアドバイザー協会 理事 長 上田 真弓 氏	芦屋市いきいき塾代表 落海 武 氏	8	18	
05	6月13日（火）	第5回集会	「笑顔の時間」 — 顔体操で心と体の若返り—	—	民族学研究者 辰巳 衛治 氏	スマイルアドバイザー協会 理事 長 上田 真弓 氏	7	16	
06	6月27日（火）	第6回集会	「病氣と私の勉強」（民俗学） — 病氣との戦いの中で—	—	潮江幸齢者ふれあいサロン 会長 根木 良一 氏	民族学研究者 辰巳 衛治 氏	8	15	
07	7月11日（火）	第7回集会	「私の随想 R-51」 — 人生の生きる目標は—	—	真言宗 春名 竜太 氏	潮江幸齢者ふれあいサロン 会長 根木 良一 氏	8	14	
08	7月18日（火）	特別講座	「法話と懇談会」 — 人生を如何に生きるか—	—	（出演者） 村上・坂口・中野・浦富一	真言宗 阿闍梨（淑明） 春名 竜太 氏	8	22	
09	7月25日（火）	第8回集会	「サマーコンサート」 — ヴァイオリン・ピアノ・独唱 皆で歌おう—	—	芦屋市いきいき塾代表 落海 武 氏	（出演者） 村上・坂口・中野・浦富一	7	17	
10	8月8日（火）	第9回集会	「断捨離 第二段」 — 5S（整理・整頓等と老前整理—	—		芦屋市いきいき塾代表 落海 武 氏	8	17	

「令和5年度」阪神南ふるさとづくり応援事業：実施行事内容（No.2）

（別紙4-2）

No.	実施日	集会名	講話	講師名	スタッフ	参加数	備考
11	8月22日(火)	第10回集会	「戦争の話聞く会」 — 会員有志4名 —	(話し手) 根木・前田・清水・小谷—	7	13	
12	9月12日(火)	第11回集会	「第6回」私の源氏物語 — 「第十帖（賢木）」 —	元尼崎市立七松小学校長 高田 昌子 氏	7	15	
13	9月26日(火)	第12回集会	「超・超高齢社会」の現状と今後	NPO法人「歌と音楽の会」 理事長 中野 博雅 氏	7	14	
14	10月10日(火)	第13回集会	「人との出会いを大切に」 — 夢・愛・志 —	夢パワー企画 代表 岡部 記代子 氏	7	16	
15	10月24日(火)	第14回集会	「私の推薦する図書3冊」 — 読書の秋に薦める本 —	会員からの提案	7	14	
16	11月7日(火)	第15回集会	「古民家に移住して」 — 新しい生活への想い —	DIY 後藤 由美子 氏	7	16	
17	11月14日(火)	第16回集会	「“あま”の文化に魅せられて」	元尼崎市教育長 保田 薫 氏	7	16	
18	11月28日(火)	第17回集会	「江戸時代の随筆などから見た民俗」	民俗学研究者 辰巳 衛治 氏	7	15	
19	12月12日(火)	第18回集会	「日本の農業問題を考える」	元尼崎産業高校長 雀部 倉平 氏	7	16	

「令和5年度」阪神南ふるさとづくり応援事業：実施行事内容（No.3）

No.	実施日	集会名	講話	課題	講師名	スタッフ	参加数	備考
20	12月19日(火)	第19回集会	「般若心経を読む」 — 解説と活かし方 —		真言宗阿闍梨 春名 竜太 氏	7	15	
21	12月26日(火)	特別企画	「年末恒例：クリスマスマミニコンサート」 — バイオリン・ピアノ演奏・歌唱 —		(出演者) 村上清三・李祥子 中野博雅・浦富健二	7	18	
22	1月9日(火)	第20回集会	「知らなかった」 — 探求が人類の新しい歴史を創った —		潮江幸齢者ふれあいサロン 会長 根木 良一 氏	7	14	
23	1月23日(火)	第21回集会	「第7回」私の源氏物語 — 須磨・明石の段 —		元七松小学校学校長 会長 高田 昌子 氏	7	16	
24	2月13日(火)	第22回集会	「介護施設の選び方とプランニング」 — 介護施設の種類の現状 —		地域密着型介護総合コンシエ ルジュ 代表 磯野 義行 氏	7	18	
25	2月27日(火)	第23回集会	「“あま”魅力に魅せられて」 — 尼崎の知らない文化 —		元尼崎教育長 保田 薫 氏	6	14	
26	10月17日(火)	特別講座	「法話と懇談会」人生とは何か		真言宗阿闍梨 春名 竜太 氏	7	16	
27								

「令和5年度」阪神南県民局ふるさとづくり応援事業

潮江幸齢者ふれあいサロン：行事写真（No.1）

4月11日（火）第1回集会
新年懇談会（根木氏）



4月18日（火）第2回集会
日本人の死生観（春名氏）



5月9日（火）第3回集会
第5回私の源氏物語（高田氏）



5月23日（火）第4回集会
シンプルライフの薦め（落海氏）



6月13日（火）第5回集会
笑顔の時間（上田氏）



6月27日（火）第6回集会
病気と私の勉強（辰巳氏）



7月11日（火）第7回集会
私の随想R-1（根木氏）



7月18日（火）特別講座
法話と懇談会（春名氏）



7月25日（火）第8回集会
サマーコンサート



8月8日（火）第9回集会
断捨離・第2段（落海氏）



8月22日（火）第10回集会
戦争の話を聞く（会員有志）



9月12日（火）第11回集会
私の源氏物語・賢木（高田氏）



B-2 三世代交流健康体操と苔玉づくり／武庫第6コミュニティ委員会

活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)						
協働団体							
事業の目的	住民同士の交流を進め、お互いに顔見知りになり、助け合う関係ができ、見守りや災害時等の支援計画に繋げる。						
事業内容	<p>1. 三世代交流の健康体操の実施(10/7)</p> <p>武庫体育館職員2名の指導で、椅子に座って首を前後・左右に動かしたり、肩を左右にねじったり、足首を握って回したりして肩こりや点灯防止の動作を繰り返して行った。また、マットを利用して屈伸や横曲げ、そり返しなどの動作を行った。健康体操の申込者は30人となっているが、親子や孫12人と一緒になって行った。</p> <p>そして昨年度と同様に健康グッズである健康ボール、押し棒、肩や腕を押す道具やマスクの使用方法などをインストラクターに教わった。</p> <p>10:00～11:00 15人(ほかに子ども5人) 11:00～12:00 15人(ほかに子ども7人)</p> <p>また、健康づくりコーナーでは、県・市・社協等の事業パンフレットを配布するとともに、事業の内容や問い合わせ先、家庭での活用方法等について相談に応じるとともに健康づくりの情報提供を行った。</p> <p>2. 苔玉づくりの実施(10/7)</p> <p>尼崎市公園協会の紹介の講師2名の指導のもと、カップ苗を取り出し、土(根)の部分丸く固め、水ゴケでそれを覆い黒糸でぐるぐる巻いて丸く固めその上に緑のハイゴケで覆い黒糸を巻いてハサミで苔を揃えて完成した。</p> <p>10:00～11:00 15人 11:00～12:00 15人</p>						
実施経過	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
	5	8	1	パークタウン 西武庫	役員会の開催	6	
		8	20	〃	実行委員会の開催	20	
	9	10	〃	事業の準備	30		
	10	7	〃	事業の実施	30	110	
目標の達成状況	<p>健康体操 15人 2回実施</p> <p>苔玉づくり 15人 2回実施</p> <p>その他 家族・見学人・健康相談等 50人</p>						

<p>事業効果</p>	<p>三世代が事業に参加することにより、顔見知りになり、助け合う関係ができ、見守りや災害時等の支援に繋げることができた。</p>
<p>補助金交付終了後の事業展開、今後の展望</p>	<p>(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)</p> <p>今後の自治会事業でも多くの地域の住民が参加でき、より世代間交流ができるよう取り組んでいきたい。 また、健康づくりコーナーは、引き続き各種イベントの際に設置をしていき、住民の健康づくりの意識の高揚を図っていく。</p>

事業実施状況を示す写真、



B-3 中難波婦人会地域ふれあい事業／中難波婦人会

活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：東難波町)						
協働団体	なし						
事業の目的	家にひきこもりがちな高齢者に声掛けをして外出することを促し生きがいと元気を与える。児童の交通安全を守り高齢者と児童が挨拶出来るようにする。子供から高齢者まで地域の行事に参加を促し世代交流を図る。						
事業内容	<p>1, ふれあい事業はなみずき会 6月～2月毎月一回開催 参加人数 40～55名 各個人へのチラシ配布と同時に安否や健康状態を確認した。地域の防災防犯についての情報を伝えた。毎回健康体操、脳トレ体操を実施した。年間行事(七夕、クリスマス、初釜、節分、誕生会)を実施した。手品、ウクレレ、ハンドベルの鑑賞。風鈴、ハンカチピエロ人形、干支の塗り絵、箸袋、アロマワックスサシェ作成。歌唱等を実施した。参加型で自ら手、頭を使うように工夫準備した。普段簡単に取り入れられる体操を実施した。</p> <p>2, 夏祭りでは、子供太鼓の参加、お茶の接待、子供、大人、スタッフ合わせて70名以上</p> <p>3, 盆踊り大人、子供合わせて約70名以上 練習会約30名以上子供も踊れる曲も練習した。</p> <p>4, 登校見守り 月～金 児童約120名 参加人数約11～16名 あいさつ運動 交差点付近で児童の登校の安全を見守り朝のあいさつをした。</p>						
実施経過	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
	23	7	15	中難波会館	夏祭り子供太鼓、お茶接待 盆踊り練習 盆踊り練習 盆踊り練習	11	約70
			8				約30
			14				約25
			21				約20
	10	10	23	八幡神社	盆踊り会 盆踊り会 秋祭り 秋祭り	11	約70
			24				約60
			14				約40
			15				約40
23	6	15	中難波会館	手品 ウクレレ、風鈴作成 歌、脳トレ、体操 歌、ハンカチピエロ作成 健康体操と干支の塗り絵 ハンドベル鑑賞と箸袋作成	11	46	
		7				47	
		9				43	
		10				55	
		11				46	
		12				48	
24	1	18	中難波会館	オカリナ演奏と歌 ヤクルト健康教室、アロマワックスサシェ作成	11	44	
		2				15	41
23	6月1日 から2月 29日まで 実施	24	通学路	児童の登校見守りとあいさつ運動(月～金)	11	5	

<p>目標の達成状況</p>	<p>1、ふれあい事業花みずき会毎月1回41～55名 2、夏祭り約70名 3、盆踊り約70名 練習会約30名 4、登校・見守り・挨拶運動 月～金 11名～16名</p>
<p>事業効果</p>	<p>毎月のふれあい事業はなみずき会では、体操、歌、工作、音楽鑑賞と多彩な内容で高齢者に楽しさと元気を与えられた。夏祭りはかなり暑かったが水分補給が十分でき、高齢者、付添人、子供の交流も出来た。盆踊りのポスター掲示で老若男女多くの方が参加してくれた。練習会で踊り方を指導してもらったので当日は楽しく踊れた。子供の曲も多くみんなで楽しめた。 登校見守りでは、多くの車が徐行運転してくれるようになって児童が安全に登校出来るようになった。挨拶を返してくれる児童が増えた。</p>
<p>補助金交付終了後の事業展開、今後の展望</p>	<p>(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。) 今後も高齢者が多く参加して元気になってもらえるように内容を工夫していきたい。 地域の行事を学校にも伝えて父兄や子供たちの参加をもっと促し行事を継続し地域全体の交流を図れるようにしたい。 高齢者の見守りは今後も続けたい。 児童の登校見守りも続け児童の安全を図り高齢者と児童の交流を図りたい。また父兄の参加も促したい。 活気があり住みやすく安全な地域づくりにつとめたい。</p>

事業実施状況を示す写真、



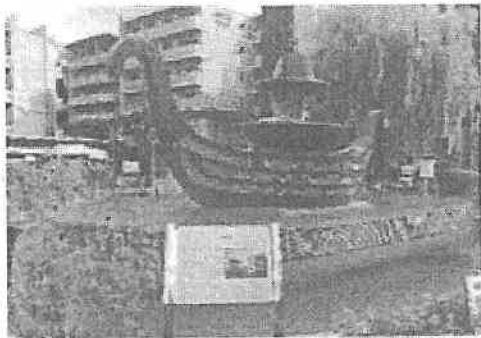
B-4 第12回阪急武庫之荘駅前ロータリー祭り
／武庫之荘水と緑のまちづくりプロジェクト実行委員会

活動地域	1 (尼崎市) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> • 「第12回駅前ロータリー祭り」は、地元の小中高校生の吹奏楽やバトンの出場、地元事業所のグルメ店の出店、市民参加のフリーマーケットの開催等々、新型コロナウイルス禍により失われた武庫之荘の活性化を図る催しにしたい。 • 障害者団体・介護事業所などに祭りを主体的に担っていただき、障害者・高齢者が利用しやすい環境づくりをめざしたい。(ユニバーサル社会) • 市民の寄付による駅前昭和歴史遺産保全運動の一環として、南口の Gondola 噴水のリニューアルにつなげて、街の歴史・魅力として若い世代・住民に伝えていきたい。
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第12回・武庫之荘駅前ロータリー祭り と き：2023年11月5日(日) と ころ：阪急武庫之荘駅前北側・南側ロータリー 対 象：一般市民 内 容：ユニバーサル社会の展望、自転車の利用しやすい環境の整備と駅周辺のランドマークの紹介 2. 地元画家中村百合子氏関連「Gondola 噴水」のリフォーム 駅前ロータリー祭りの開催に合わせ寄付金を募集して、リフォームと作品紹介の案内板設置をした。 3. 自転車マナーキャンペーン と き：2023年6月から2024年1月(毎月第2水曜日) と ころ：武庫之荘地区及びその周辺 対 象：一般市民 方 法：駅前金融機関とシルバー人材センターよりチラシ入りティッシュを提供していただき駅利用者に配布し、啓発活動を行った。 4. 水路清掃 と き：2023年6月から2024年1月(毎月第2土曜日) と ころ：武庫之荘駅北水路 5. 駅前清掃 と き：2023年6月から2024年1月(毎月第4水曜日) と ころ：武庫之荘駅北側ロータリー

	年	月	日	活動場所	実施内容		
						スタッフ	参加者
実施経過	5	7	28	西富松会館	第78回実行委員会	5	13
	5	11	23	西富松会館	第79回実行委員会	6	25
	5 ～ 6	6 ～ 1	14 ～ 10	武庫之荘駅北 ロータリー	交通ルール順守チラシ配布 毎月第2水曜日	2 ～ 4	12 ～ 20
	5 ～ 6	6 ～ 1	10 ～ 13	武庫之荘駅北側 水路	水路清掃 毎月第2土曜日	1 ～ 5	
	5 ～ 6	6 ～ 1	28 ～ 24	阪急武庫之荘 駅前	駅前清掃 毎月第4水曜日	2 ～ 5	15 ～ 25
	5	11	5		第12回駅前ロータリー祭り	125	約3000
目標の 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 周知については通信20号を作成し、出演団体や園児ギャラリーに参加された保育園、幼稚園及び周辺地域に配布しPRを図った。 コロナの影響もあり、食品の提供やフリーマーケットは取りやめたが、駅北のパレードとリニューアルした南側 Gondra 噴水の演奏会では地元幼稚園、小学校、中学校、高校の歌やバトン、軽音楽部、吹奏楽部の演奏で祭りを盛り上げてもらった。 安心・安全啓発活動では、尼崎市の生活安全課と連携し、南武庫之荘中学校、市立尼崎高校のボランティア部の生徒による、放置自転車や交通安全のグッズとチラシ配布を行い、啓発活動が実施できた。また、消防局・団、警察などの協力を得て、普段接することのできない消防車や白バイなどの展示と写真撮影なども行い啓発活動が展開できた。 子ども会や、生協活動、障がい者団体の協力を得て、ゲームや物品の販売、紙芝居なども行い全世代の市民が楽しめる工夫を行った。 地元市民の要望が大きかった損傷が著しい Gondra 噴水は、ロータリーまつりに合わせて取り組み、市民の多額のご寄付により修理する事ができた。 						
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> 10数年の活動により、武庫之荘駅前が抱えていた歩行が困難なほどあった放置自転車(約1,500台)の解消、車道を人が往来し危険な駅前から、ゆったりとした歩道が形成され、人、自転車、車が分離され安全な駅前への変貌した。 事前の通信20号の周辺地域への配布と地元の幼児から高校生まで参加してくれたことにより、家族や友人知人、周辺からの参加で祭り当日はおおよそ3,000人の参加者で大いに盛り上がった。 周辺の商店にも多くの来客があったものと思われる。 若い店主が集まった新たな「武庫之荘バル」グループと連携し取り組む事ができた。こうした若いグループの武庫之荘の活性化に期待する。 駅前に昭和の時代に活躍した地元の芸術家の作品であるモニュメントは、損傷が著しく、作品の修理を地元市民の寄付により行ってきた。今回は中村百合子氏の絵をモチーフにした Gondra 噴水を修理した。噴水が稼働し水に映える姿が美しい。また、説明板の設置により地元の画家の作品がモデルになった事が分かり、武庫之荘の魅力となっている。 						

<p>補助金交付 終了後の 事業展開、 今後の展望</p>	<p>(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 当会の活動当初は、地元自治会の協力も得ていたが、役員の高齢化などにより、協力を得ることが困難になっている。また、我々実行委員会メンバーの高齢化も同様で、これまでの活動を維持できるのかが課題である。今年の祭りにおいて若手商店主で構成している「武庫之荘バル」のメンバーの協力を得ることができたが、どの様に引き継いでいけるかが課題である。 • 駅前・水路の清掃や交通安全の遵守啓発チラシ配布は駅前金融機関、シルバー人材センターなどの協力を得ながら継続していきたい。
---	---

事業実施状況を示す写真



B-5 あまがさきホテル再生プロジェクト／あまがさきホテルの会・宮/北

活動地域	<p>1 (尼崎) 市</p> <p>2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)</p>
協働団体	西武庫公園ホテルの会
事業の目的	<p>「ホテルの里」という拠点を活かし、ホテルを通して人のふれあい、身近な自然との共存の在り方など市民の関心を高めながら、ホテルの里の保全や復元を図っていきたい</p>
事業内容	<p>異常気象により、ホテルの卵が手に入らず、今年度計画していた、ホテルの卵を購入し、新たなコンテナとポンプ等の設備一式の設置はできませんでしたが、地域の方との交流や寄附金活動、整備作業に取り組みました。</p> <p>【ホテルの里、大清掃】9・16 地域の方と長年の里や小屋にあったゴミを大掃除。3トントラックいっぱいの廃棄物が出ました。</p> <p>【宮の北公園お祭り出店】10・8 ・綿菓子で出店 あまがさきホテルの会・宮の北として綿菓子で出店。 雨のため途中中断したものの、地元団地の皆様と交流</p> <p>【武庫まつり出店】10・28 ・綿菓子で出店 チラシを配布、ポスターや活動の様子を貼り、活動の周知 武庫地域の方と交流 たくさんのごもたちに喜んで頂けました。</p> <p>【農業祭に出店】11・5 市役所で行われた農業祭で活動のチラシを配り、活動の周知、昔テレビ放映のDVDを流しました。 市内の方に武庫地域や、市内にホテルの活動をしているのを知っていただけた。簡単なバルーンアートで子ども達にも喜んで頂けました。</p> <p>【西武庫公園ホテルの会のメンバーの見学交流会】3・17 むこっロードキッズクラブの親子、関西大学のゼミのメンバーがホテルの里の見学。昔からの活動、里の千年竹の話など、研修員の竹内さんのガイド案内 定期的に水路清掃・花植えを行いました</p>

	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
実施経過	5	5		ホテルの里 周辺地域	各地域担当を決めてチラシ配 布	5	
	5	6	4	宮ノ北団地集 会所	第二回総会	10	5
				ホテルの里	清掃・花植え・伐採	10	5
		7	25	武庫西プラザ	会議	8	
		9	3	ホテルの里	清掃・伐採	8	
			10	ホテルの里	小屋清掃	8	
			16	ホテルの里	ゴミ出し・清掃	10	4
		10	8	宮の北公園	公園お祭り出店	4	
			18	宮ノ北団地集 会所	会議	6	
						4	
		11	28	西武庫公園	武庫祭り出店	8	
			5	農業祭	活動紹介・出店	5	
	6	1	20	武庫西プラザ	会議	6	
		3	1	中央北プラザ	あまらぶ発表会	1	
	3	17	ホテルの里	西武庫公園ホテルの会・関西 大学生見学交流会	3	22	
目標の 達成状況	異常気象により、ホテルの卵が手に入らず購入して、今年度計画していた、新たなコンテナとポンプ等の設備一式の設置はできず、ホテルの放流を断念せざるを得ませんでした。周知や募金活動で、来年度に寄附やチャレンジ事業でポンプの設置ができそうです。今年度は自然の保全・復元活動に取り組み、大量のごみを廃棄できたのが大きな成果です。コンテナとポンプ等の設置に向けた準備ができました。						
事業効果	お祭りなどに出席することで、西武庫公園ホテルの会や地域と交流を深めることができた。						
補助金交付 終了後の 事業展開、 今後の展望	(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。) 異常気象にも対応できるよう、飼育小屋の整備、飼育コンテナと必要なポンプ整備を整えて、ホテルの里を拠点として幼虫の孵化、飼育、放流を目指して参りたい。今後は園田地域の「自然と文化の森協会」とも交流を行い、尼崎市の市街地でもホテルの飛翔が見えるようにしたい。						

事業実施状況を示す写真



B-6 塚口の古い歴史と文化を感じ今を伝える／NPO 法人 ASU ネット

活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：尼崎市塚口町・塚口本町・南塚口町)
協働団体	・尼崎市 NPO 法人活動協議会 塚口本町社会福祉協議会
事業の目的	市内・市外の人が気軽に参加しやすいイベントを通して、塚口の歴史や文化・伝統技術を紹介して人々の交流を図るとともに、塚口のまちを知ってもらい、興味を持って頂くことで、塚口のまちづくりを共に盛り上げ、地域を活性化に繋げた。
事業内容	<p>塚口歴史マップの冊子を活用し、「クイズ形式のスタンプラリー」や全国に2社しかない「120年作り続けた老舗商店のこも樽づくりの会社の見学」などのイベントを実施した。</p> <p>元教員で郷土史家として活躍されている講師の方にスタンプラリーの案内・解説を請け負ってもらい、専門的ながらも親しみやすい内容のイベントになった。</p> <p>・実施概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪急塚口駅北側改札口前 (当日、担当者が待機しスタート場所まで案内する。) ・ スタート場所で当日のスケジュール・注意点・スタンプラリーコースの説明 ・ 地蔵堂 10分 (スタート場所から3～4分。途中、南門跡の解説有) (地蔵堂の説明) ・ 矢野商店 15分 (土日は休みの為、こも樽づくりの場所を見学する) ・ 東門跡・道標 10分 (門跡・道標の解説有。土塁の見学・札場の説明有) ・ 清水町門跡・尼崎藩領域道標 10分 (門跡・道標の解説。馬出しの説明) ・ 正玄寺 10分 (塚口御坊の解説) ・ 永楽亭コミュニティールーム <p>2023年10月7日(土) スタンプラリー 10人</p> <p>2023年11月3日(金) スタンプラリー実施 30人</p>

	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
実施経過	5	6	13	永楽亭塚口ルーム	事業内容・予算打ち合わせ	10	
		6	27	永楽亭塚口ルーム	企画内容検討	10	
		7	8	永楽亭塚口ルーム	現地下見のあと永楽亭	8	
		7	15	スタンプラリー下見、永楽亭公共施設	チラシ作成・配布と永楽亭	8	
		8	5	永楽亭塚口ルーム	広報活動・スタンプラリー先への挨拶回り	8	
		8	5	永楽亭塚口ルーム	スタンプラリー準備	8	
		9	9	永楽亭塚口ルーム	講師との詳細打ち合わせ	8	
		10	9	スタンプラリー 永楽亭休憩	スタンプラリー実施	6	10
		11	3	スタンプラリー 永楽亭休憩	スタンプラリー実施 (別紙のとおり)	8	30
		11	16	永楽亭ルーム	反省会・ふりかえり	12	
		11	25	永楽亭ルーム	資料整理反省会	8	
目標の達成状況	講師の全体指揮の基に事前の打ち合わせに基づいてスタッフが決められた各ポイントに立ちチェック、何回か事前に下見もして、スタンプラリーのコースは確認。時間通り進行できた。但、計画していた日程は雨天の予報で2回も変更になり参加予定していた人数が激減した。						
事業効果	スタンプラリーというイベントを通して、塚口地域に住んでいる人も知らなかった塚口の歴史を知ったり、他の地域からの参加者に塚口を知ってもらうことで、興味を持ってもらい、これからのイベント参加にも繋げていき永いスパンで塚口のまちを盛り上げていく人材を育てることで地域社会の活性化につなげた。 前回に続き空き店舗、周辺のフリマ、スタッフの展示工夫もあり以前より大好評であった。						
補助金交付終了後の事業展開、今後の展望	(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください) 今後は今回の実践経験を基に地域を広げて、他団体とネットワーク化して他地域の人たちとの交流で特産物、歴史を発見し、広がりを期待。						

事業実施状況を示す写真

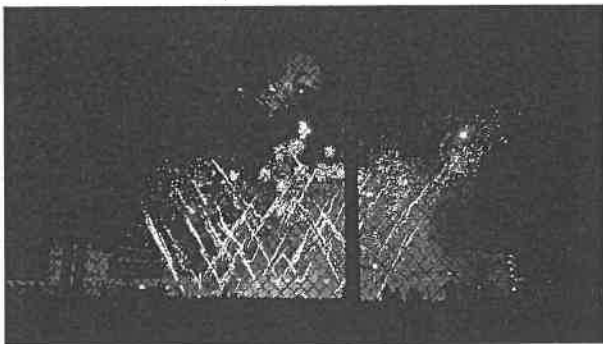


B-7 夏祭り花火大会／コミュニティルーム武庫運営委員会

活動地域	① (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)						
協働団体	産業技術短期大学、尼崎市消防団武庫地区、武庫地区少年補導委員連絡会、兵庫県立武庫荘総合高等学校、武庫第 11 社会福祉連絡協議会、武庫第 12 社会福祉連絡協議会						
事業の目的	花火大会を開催する事で、地域の人たちに綺麗な花火を見てもらい地域愛の醸成を図るとともに、地域の大人達が花火師役となり花火に着火する姿を子どもたちに見せる等、コミュニティづくり、地域の絆づくりを行う。また会場の大学の協力を得て、野外のイベントを地域住民と協力して実施することで、世代間交流を図る。						
事業内容	<p>1. コミュ武庫花火大会 (8/11) 資格・免許が必要のない安全な玩具花火だけを使い、地域住民(地域の役員・消防団・武庫荘総合高等学校の学生等)が花火師役・ボランティアスタッフとして運営を行い、地域に密着したイベントを実施した。 子ども向けに実施予定であった花火教室(手持ち花火)では、明るさの関係で実施できなかったが、地域の消防団に協力を仰ぎ、寸劇を通じて幼少期の健全な防火思想の育成を図るとともに世代間交流を行った。また市民団体に縁日に参加してもらうことで地域の子どもたちと大人の交流する機会をつくった。 参加者数：1,403 人</p> <p>2. コミュ武庫花火大会振返り (9/15) コミュ武庫花火大会 (8/11) 実施結果について振返りを行った。 参加者数：11 人</p>						
実施経過	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
	6	13	火	武庫西生涯学習プラザ 1F コミュニティルーム	イベント打合せ	4	5
	7	7	金	武庫西生涯学習プラザ 1F ホール	イベント打合せ	4	7
	7	27	木	武庫西生涯学習プラザ 1F 会議室 1	イベント打合せ	3	6
	8	7	月	武庫西生涯学習プラザ 1F ホール	イベント打合せ	4	6
	8	11	金	産業技術短期大学グラウンド	コミュ武庫花火大会	100	1,403
9	15	金	武庫西生涯学習プラザ 1F ホール	コミュ武庫花火大会振返り	4	7	

<p>目標の 達成状況</p>	<p>コミュ武庫花火大会への参加人数：申込み者：259組 1,052人 当日参加者 351人 計：1,403人</p>
<p>事業効果</p>	<p>(事業を通して、地域の活性化がどのように図られるか、また、地域社会にどのような影響が期待されるのか等、わかりやすく記入してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の消防団に協力を仰ぎ、寸劇などを通じて花火教室に参加した子どもたちに幼少期の健全な防火思想の育成を図るとともに世代間交流を図った。 ・地域の大人達が花火師役となり花火に着火する姿を子どもたちに見せることで、地域コミュニティの醸成や、地域の絆づくりを行った。 <p>また会場の大学の協力を得て、野外のイベントを地域住民と協力して実施することで、学校と地域そして関係団体との間で交流を図った。 学生ボランティアや市民団体に縁日・イベントに参加してもらうことで地域の子どもたちと大人の交流する機会を図った。</p>
<p>補助金交付 終了後の 事業展開、 今後の展望</p>	<p>(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金源の確保を行いつつ、武庫地区全体での取り組みとして事業運営を行っていく。 ・今後も引き続き「コミュ武庫花火大会」のような事業を展開し、世代間交流・地域愛・地域コミュニティの醸成・地域のきずなづくりを行う。

事業実施状況を示す写真



B-8 「大豆プロジェクト」 / 園北ファーム「田能みんなの畑」

活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：伊丹市)
協働団体	
事業の目的	<p>(課題に対して、どのような方法で解決を図るかなど、わかりやすくご記入ください。)</p> <p>大豆は弥生時代(一説では縄文時代)より日本で育てられてきた植物で、比較的どんな環境でも育ちやすく、初心者が育ててみるには適したものです。</p> <p>また食の面においても、日本人が古来より食べ続けてきた大豆は、貴重なたんぱく源として食の柱になるものでした。</p> <p>大豆の長い歴史の中で、効率よく消化するための加工方法がたくさん生まれ、定着してきました。</p> <p>味噌、醤油、納豆、豆腐、きなこ、煮豆などの大豆加工は、かつてはどの家庭でも行っていたことですが、現代では、購入するのが一般的になっています。</p> <p>日本人にとって、とても身近な大豆を、コミュニティで協力しあいながら実際に育てて、様々な加工をして食べてみることで、自然環境の大切さ、農地の大切さ、食の大切さを自然と学びます。</p> <p>そのことによって、コミュニティを育てながら都市農地を保全することが目的です。</p>
事業内容	<p>1: 畑での大豆栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくり 土づくりは、粃殻と米糠、竹の粉末、武庫川渡船さんの魚粉肥料、三和商店街のオカラを混ぜ合わせました。また雑草ドメには田能資料館さんから落ち葉をいただき撒くことで、地域の中で得られる有機肥料で土づくりを行いました。 ・大豆栽培 大豆の植え付け、大きな粒を作るための摘心、台風対策の支柱たてなどを行いました。栽培をみんなで行うことで、虫害への対策、害虫を避けるコンパニオンプランツのことなど、さらに初秋の枝豆の収穫では枝豆が大豆の若い実であることを知らない人もいたり、作物栽培に触れることで、作物を知り、食べ物の大切さを学ぶ機会づくりができました。 ・大豆収穫 刈り取り、乾燥、脱穀をみんなで行なっています。自分達で育てた大豆を収穫することで、貴重な一粒一粒をもらさず収穫するようしています。 一株から約40グラム~45グラム、畑全体では20キロの収穫でした。 ※農機具は唐箕と足踏み脱穀器を用いています。 <p>参加者：子育て世代を中心とした有志：各月の第一日曜日を定例活動日とし、それぞれ10名から20名の参加でした。</p> <p>栽培場所：田能6丁目の畑、大物町の畑、各家庭のプランター栽培など</p>

2：大豆の加工品ワークショップ

- ・大豆の加工品ワークショップでは、納豆づくり、豆腐作り、ずんだ餅、醤油作り、味噌作りを行いました。

旧くは各家庭で行われていた加工を追体験する機会でした。どれも素材の味がしっかり感じられ、素材本来の味わいを感じられる内容でした。

参加者：子育て世代を中心とした有志：それぞれ10名から20名の参加でした。

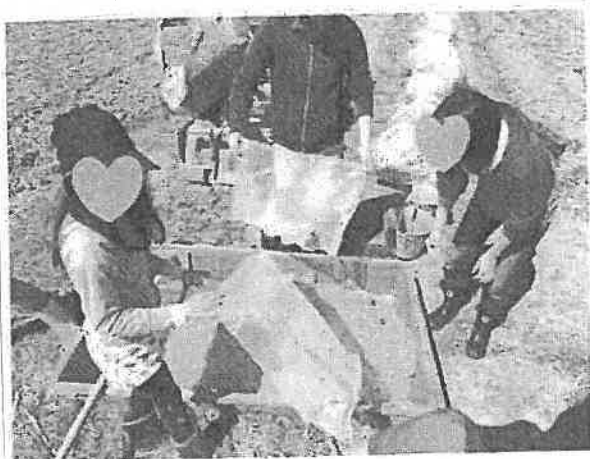
3：大豆にまつわる勉強会

- ・尼崎の大豆の歴史を地域史料館で調査。
- ・手製醤油作りの映画の上映会と栽培の勉強会
- ・都市農業の映画の上映会と栽培の勉強会

	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数			
						スタッフ	参加者		
実施経過	2 3	6	1	田能/大物	土づくり				
			4	田能	畝立て	2	10		
			10	田能/大物 田能/大物	大豆植付 発芽確認	2 -	18 -		
	7	7	1	穀菜食堂なばな	豆腐作り	1	8		
			15	田能/大物	適芯、草刈り	2	10		
			18	穀菜食堂なばな	納豆づくり	1	8		
			22	善法寺ファーム	枝豆と季節の温野菜提供	3	35		
			23	小田南生涯学習プラザ	豆腐作り	2	20		
			8	8	6	田能	台風対策	2	8
	9	9	7	大物	台風対策	2	4		
			3	田能/大物	草刈り	2	10		
			27	地域研究史料館	尼崎の大豆栽培の歴史	2	3		
	10	10	29	田能	枝豆収穫	2	15		
			1	小田南生涯学習プラザ	ずんだ餅づくり	1	20		
	24	24	15	大物	台風対策	2	5		
			11	11	5	タウンハウス	大豆と農地の勉強会	2	17
					27	大物	大豆収穫 天日干し	1	3
			1	1	3	田能	大豆収穫 天日干し	2	20
					4	田能	大豆収穫 天日干し	2	20
					8	田能	天日干し	1	5
					22	田能	天日干し	1	5
			2	2	7	田能/大物	大豆脱穀	2	15
					14	田能	大豆脱穀	2	5
			2	2	4	タウンハウス	味噌づくり	1	18
	18	田能			醤油搾り	1	12		
					※田能は田能6丁目の畑を示す。 ※大物は大物町の畑を示す。				

<p>目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・畑での大豆栽培：延べ参加人数 201名 ・大豆の加工品のワークショップ：延べ参加人数 94名 ・大豆にまつわる勉強会：参加人数 24名 <p>お子さん連れの方々の興味や参加が見られ、栽培と加工が身近に感じられる機会を作ることができました。農業初心者の方々が多く、手探りの発見が多い農作業でしたが、それらも良い体験となりました。</p>
<p>事業効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆の栽培と加工は、古くは各家庭で行われていたことです。植え付けから脱穀、そして加工することは難しいことではなく、「知ることによって出来る」ということを、伝えることができた内容でした。とくにお子さんの収穫体験や生き物体験、土に触れる機会と、食べ物加工をつなげることで、栽培から加工までの仕組みを学ぶ機会を作ることができました。 ・テーマを持ったコミュニティ畑の活用により、減少する街の農地の魅力創出の方法を広げることができました。 ・それぞれが体験して一年を通じた「大豆プロジェクト」のチラシが作成できたことは、次年度へ向けた案内とともに参加した皆様で共有できる記録にもなりました。
<p>補助金交付終了後の事業展開、今後の展望</p>	<p>(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度は、今年度栽培した大豆で豆腐づくりなどの加工が行えます。引き続き「大豆プロジェクト」のチラシにある活動を行うことで、暮らしに身近で着実な活動につなげることを目指します。また大豆は育てやすく強い作物なので、各家庭でのプランター栽培を広げて行くことも考えています。 ・2024年度は、果樹園が隣接した畑に活動場所を移動します。そこでは、今までの近隣の田んぼからの葉や米糠の利用のほか、果樹の落ち葉を利用するなど、より地域循環を意識した畑づくりを試みる事が可能です。 ・本活動が都市農地維持の一助になることを期待しています。ご支援いただきありがとうございました。

事業実施状況を示す写真



B-9 あまっこインターナショナルスクール

／特定非営利活動法人尼崎市国際交流協会

活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	
事業の目的	尼崎市をグローバル都市とするために、市民が日本人、尼崎人としてのアイデンティティを持ちながら、国内外のグローバルな舞台上で活躍できる人材となるよう、スキル研修と実践で育成する。
事業内容	<p>(対象者、実施方法等、取組みの具体的な内容をご記入ください。)</p> <p>海外在住、赴任、グローバル企業での勤務経験のある、あるいは企業経営者で国際的な知見のある講師が、多文化共生社会で活躍するために必要なノウハウを2日間の研修を通して、高校生にレクチャーした。</p> <p>【I】 Consideration</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解スキル ・マナー&ホスピタリティ ・パースペクティブ (ものの見方) を考える <p>【II】 Communication</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友達・仲間を作ろう」～使える外国語の身につけ方 ・「論理的に考え、話そう」～ロジカルシンキング ・「お金も大事」～国境を越えたお金の使い方 ・「尼崎ってええやん」～尼崎の良さを共有 <p>【III】 Collaboration</p> <p>屋外研修 2日目午前には阪神尼崎駅前にあるベイコムを訪問し、阪神間のネットシステムやインターネットについて専門家の方より説明と施設見学をさせて頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットにおける世界との繋がり方 ・インターネットで学ぶグローバル <p>【IV】 総合演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尼崎市ダイバーシティ課 田ノ上氏より、尼崎市の多文化共生状況を説明、外国人の在留資格や、課題などを考える講座を提供 <p>参加者が行政へのヒアリングを通じ、尼崎市をグローバル都市にするためにどんな課題があるのか、各自、多文化共生社会に貢献できることを議論し、発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後イベントとして、園田学園女子大学に短期留学していただいた留学生との交流会に一部の生徒が参加し、グローバル体験をした。

	年	月	日	活動場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
実施経過	5	4	1	オンライン	事業フレームワーク作成 ・日程・内容・目的・予算など	5	3
	5	4	20	協会事務所	・チラシ PR の内容検討 ・作成枚数 ・場所 ・内容 デザイン	5	3
	5	4	10	協会事務所	・研修内容 講師プレゼン	5	3
	5	5	31	協会事務所	・研修内容 講師プレゼン ・ベイコム依頼	5	3
	5	6	18	協会事務所	・企業・行政ヒアリング申請 内容 検討	5	3
	5	6	末	協会事務所	・募集開始(市報・HP・各学校)	5	3
	5	7	20	双星高校	・生徒説明・	5	2
	5	7	25	研修会場	確認・リハーサル	5	3
	5	8	8	研修会場	当日	6	20
	5	8	9	研修会場	当日	6	20
	5	9	6	尼崎市立 いくしあ	・園田学園大学留学生 交流会に参加	2	30
目標の 達成状況	<p>市立尼崎高校 7名 市立双星高校 4名 園田学園女子大学 1名 オブザーバーとして、教育委員会高校教育課 2名～4名 双星高校 教師 1名 初回だったこともあり、定員 20 名には少し到達しなかったが、行政、教育委員会、教育現場など、主要組織に知ってもらうことができた。</p>						
事業効果	<p>近年、文部科学省が提唱している「主体的・対話的な学び」、「個に応じた指導」そして「協働的な学び」を、教育現場外の地域で実施できたことは、とても意義があることだと考える。若年層の教育は、地域全体で支えるという活動を定着させていきたい。</p> <p>尼崎市教育委員会、学校現場、行政、大学の連携で、各組織の存在意義が承認されたことも、今後の尼崎市の多文化共生社会構築に貢献できると考える。</p>						
補助金交付 終了後の 事業展開、 今後の展望	<p>(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)</p> <p>今回、初めての試みであったこともあり、この事業の認知度が弱かったと感じる。また、高校生の夏休みの部活状況なども把握していなかったので、次回は、教育現場と早めに連絡を取り、日程調整から、各学校が目指す教育の特質なども取り入れながら実施したい。若年層のグローバル人材教育は、多くの地域組織が必要と感じていることなので、より協力者を募り、質や規模を拡大していきたい。</p>						

事業実施状況を示す写真



B-10 地域コミュニティ活性化事業／高齢者福祉を考える会

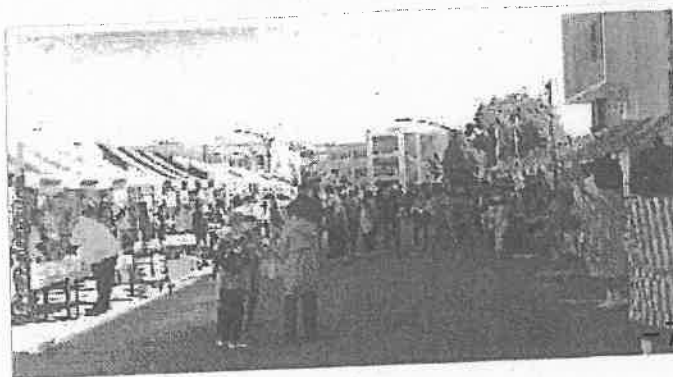
活動地域	1 ■ (尼崎市) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	生島西社会福祉連合協議会
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比較的元気な高齢者が、本当に支援を要する地域の高齢者を対象に諸活動を行うことで、地域と自らの両方が元気になれることを目標に進めている。
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. いきいき講座年4回開催 上ノ島町の市民、上ノ島西会館を拠点に様々なテーマで取り組んでいるが今年は特殊詐欺をテーマに実施する。 2. いきいきサロン 年12回開催(毎月第3月曜午前)、上ノ島西会館でコーヒーなどの飲み物を100円で提供し、気楽に話し合える場の提供をする。手品やミニ演奏会など、多聞漬とベーカリーの販売も行う。 3. なんでも相談 日頃の困りごとの相談をいきいきだよりで案内。 4. いきいきだよりの発行 いきいき講座の開催前に年4回発行し、講座の案内や報告、コラム、サロンの案内。今年は特集記事として「特殊詐欺」をテーマに実例と対策を紹介していきたい。毎号1,600部発行。 5. 運営会議 年12回開催(月1回)上ノ島西会館 約1時間で当面の取組等を議論し決めている。 6. あじさい祭り、盆踊り大会、立花まつり、餅つき大会、防災バスツアーの各行事において生島西連協と各行事の準備段階から終了まで取り組み、大いに連携を図れた。

(表の網掛け部分は期間外)

	年	月	日	活動場所	実施内容		
						スタッフ	参加者
実施経過	5	5	2	上ノ島町1~3丁目	いきいきだより 81号発行	5	1600部
	5	5	21	上ノ島西会館	第73回いきいき講座 「特殊詐欺」	8	29
	5 ~ 6	6 ~ 2		上ノ島西会館	運営会議 毎月第4週に開催	9~12	
	5 ~ 6	6 ~ 2		上ノ島西会館	いきいきサロン 毎月第3月曜日に開催	6~10	20~40
	5	6	8 ~ 15	上ノ島西公園	あじさい祭り 出店：コーヒー、綿菓子、 多間漬	10	193 (売り上げ)
	5	8	5 ~ 6	北カリカエ公園	生島西盆踊り大会	20	2000
	5	8	2	上ノ島町1~3丁目	いきいきだより 82号発行	8	1600枚
	5	10	17	人と防災未来センター	1.17は忘れない 防災バスツアー	10	80
	5	10	22	立花南生涯学習 プラザ	立花まつり 多間漬と綿菓子販売	6	
	5	8	27	上ノ島西会館	第74回いきいき講座 落語と篠笛	8	41
	5	11	3	西武庫公園	多間漬販売	5	
	5	11	5	阪急武庫之荘駅 南	第12回ロータリー祭り 会場整理	5	3000
	5	11	9	上ノ島町1~3丁目	いきいきだより 83号発行	7	1600枚
	5	11	26	上ノ島西会館	第75回いきいき講座 「地名から見る尼崎」	10	33
	5	12	2	上ノ島西公園	餅つき大会	10	300
	6	2	5	上ノ島町1~3丁目	いきいきだより 84号発行	6	1600枚
	6	2	25	上ノ島西会館	第76回いきいき講座 「なつかしの歌声ホール」	中止	
目標の 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議は、毎月第4週に開催し、取り組みの反省と今後の活動計画の意思統一を行った。 助成期間外ではありましたが、市の生活安全課から講師派遣をお願いし「特殊詐欺」をテーマにいきいき講座を開催し地域の高齢者への注意喚起を行った。8月27日は「落語と篠笛」、11月26日は「地名から見る尼崎」、2024年2月26日は「なつかしの歌声ホール」を開催予定であったが、講師の都合により急遽中止となった。 今年は当会実施の事業だけでなく、生島西連協と連携を強めたことにより、あじさい祭り、盆踊り大会、立花まつり、餅つき大会の実行委員会に準備段階から後片付けまで参加した。 いきいきだより81号「特殊詐欺」の発行は、期間外であるがいきいき講座に合わせて5月に発行。82、83号、84号は予定通り発行できた。 新型コロナウイルスの感染防止のため、資金調達で取り組んでいる多間漬や綿菓子の販 						

	売が出来るようになった。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> 各自治会が高齢化や担い手不足により衰退している中で、生島西連協主催の行事の実行委員会に参加し、大いに共同で盛り上げることが出来た。地域コミュニティの活性化にも繋がっている。また、各催事において連協との役員を兼ねる方も多く、当会の事業に外部からの応援がないと人がたりない場面もあり、当会の活性化にも繋がっている。人事交流の結果、若い会員の入会もあった。 コロナ明けもあり各行事の参加者は増加傾向。いきいき講座は12月現在で昨年より1割アップ、2月の講座でさらに増える見込み。いきいきサロンは12月時点で約2割の減であるが、年度末まで3回残されており昨年並みか増える見込み。 生島西連協との連携により、催事への参加も増えた。その効果で資金調達機会が復活したことと本助成金を認められたことにより、当会の会計が赤字基調から、少しずつ黒字基調へ変化している。 なんでも相談においては、相続や医療問題、通学路の安全など年間数件ではあるが、定着してきている。 いきいきだよりは、予定通り発行することが出来た。地域の情報誌として催事の紹介や報告を行っており、一定の役割を果たしている。当初は連載で「特殊詐欺」を掲載する予定であったが、5月に詳しい講座を開催したことにより、連載は尼崎の地名を続けることになった。ただ、地名も市立博物館のダウンロードがセキュリティの関係でできなくなり、新たなテーマが必要となっている。配布については連協の役員を通じて多くの単組で配布出来ている。また、地域内の連協に加盟していない単組や自治会のない地域へも配布し、地域の情報誌としての役割を果たしている。マンネリ化しない様に興味を引く、読まれる「いきいきだより」づくりは課題である。 運営会議は定期的で開催されており、定着しているが10数年の取り組みを続けており、いきいき講座などでのテーマづくりに苦心もしている。
補助金交付終了後の事業展開、今後の展望	<p>(次年度以降どのように事業を展開(継続)していくのかご記入ください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的目的の通り、比較的元気な高齢者が、本当に支援を要する地域の高齢者を対象に諸活動をすることで、地域と自らの両方が元気になれることを踏襲する。高齢者の知識の向上や楽しむ機会を取り組んでいく。 具体的事業についてはこれまで通りとなるが、10数年経っており、マンネリ化しないようにしたい。 昭和40年代に町が出来ており、高齢化が進行している。今年元旦の能登半島地震に見られるように高齢化と家屋の耐震化など、阪神大震災から30年、改めて東南海地震への備えについて生島西連協とも協働で新たな具体的な事業を考えていきたい。 組織について、若い会員の入会はうれしいことではあるが、会の目的の理解が必要である。会の目的との齟齬をきたさないように会の活性化にも取り組んでいきたい。

事業実施状況を示す写真



B-11 第7回西宮浜さくら祭／西宮マリナパークシティ協議会

活動地域	西宮市
協働団体	西宮浜マリナコミュニティ
事業の 目的・趣旨	<p>西宮浜の住民相互の親睦を図るとともに、住民が西宮浜の桜をはじめとする住環境の良さを知り、住みよい西宮浜の魅力を発信することによって、地域振興につなげる。コロナ禍での開催になるので、感染防止策を徹底するとともに、コロナ禍にあつて薄れつつある住民同士のつながりの再構築のきっかけとなれるようなイベントを目指す。</p>
事業内容	<p>西宮浜さくら祭の開催</p> <p>①主として西宮浜公民館で活動する団体・グループのステージ発表 西宮浜公民館で活動する7団体に加え、西宮浜義務教育学校ジャズバンド部、西宮東高校ダンス部のステージ発表を行った。 その他、ステージにて、防災のおはなし（西宮市地域防災支援課）防犯のおはなし（西宮防犯協会）も開催し、住民力アップに取り組んだ。</p> <p>②住民が集える場としての、飲食ブース 飲食ブースは市内福祉施設を2施設、キッチンカーを1台。</p> <p>③ワークショップやゲームなどで住民同士の交流 防災ワークショップで防災すごろくその他、住民の団体によるプラ板工作、ストラックアウトを実施。コープによるスタンプラリーも開催。</p> <p>④アートのまち西宮浜を専門家の案内でまわるアートウォーク アートウォークに加えて、西宮浜の風景写真展や西宮浜義務教育学校卒業制作の展示も行った。</p> <p>⑤西宮浜産業団地の企業によるマルシェ 呼びかけに応えてくれた2社によるマルシェ</p> <p>⑥義務教育学校生徒（中学生）によるボランティア 生徒会役員を中心に20名近い中学生がボランティアとして参加</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	4	11	13	西宮浜公民館	第1回実行委員会	8	10
	5	1	22	西宮浜公民館	第2回実行委員会	8	12
	5	3	12	西宮浜公民館	第3回実行委員会	8	20
	5	4	1	公園・公民館	前日準備	6	
	5	4	2	西宮浜公民館 さくら公園等	第7回西宮浜さくら祭当日	40	1000
	5	4	16		西宮マリナパークシティ協議 会役員会で総括	8	
目標の 達成状況	<p>新型コロナが完全には収束しない中、好天にも恵まれ、無事に開催できたことが最大の成果だと考えている。</p> <p>予定していたプログラムや出展内容については、すべて予定通り開催でき、予想以上の人出の中、多くの住民の参加と参画を得られた。十分に開催目的は達成できた。 (参加者数：1,000人)</p>						
事業効果	<p>コロナ禍で地域のお祭りや大きな催しがほとんどなくなっていたため、会場では「久しぶり～」「元気にしてた？」という住民同士のやり取りがあちこちで見られ、地域住民が集まる機会の重要性を改めて認識させられた。</p> <p>中学生の参加も多く、子どもたちのふるさと意識の醸成にも一役買えたものと思っている。こういった取り組みを続けていく中で、まちにかかわる住民を少しずつでも増やせていけたらと思っている。</p>						
補助金交付 終了後の事業 展開、今後の 展望	<p>次年度以降も、西宮浜さくら祭は続けていきたいと考えている。一過性のイベントだという批判もあるのは理解しているが、従来なにもなかった西宮浜によろやく住民全員が楽しめるイベントとして始めたさくら祭を、大切に育てていくことこそが、街づくりの原点だと考えている。</p> <p>次年度以降の企画に際しては、西宮マリナパークシティ協議会役員だけではなく、住民全体に呼び掛けて、老若男女が参画する実行委員会を結成し、企画段階から盛り上げていけるよう、取り組んでいきたい。</p>						

事業実施状況を示す写真



B-12 「街区公園(岩ヶ平公園)を活用した多世代交流と健康づくり」

=公園清掃～焼き芋づくり～地域住民のための交流プログラムの実施=

／芦屋市 岩園町自治会

活動地域	芦屋市
協働団体	芦屋市地域福祉アクションプログラ推進協議会（市・地域福祉課、社会福祉協議会、東山手高齢者生活支援センター・聖徳園）、芦屋大学、芦屋学園中高等学校、兵庫県警察学校、芦屋警察署、芦屋消防署、どんぐり銀行、木山左官、健康体操・藤沼氏など
事業の目的・趣旨	自治会が主体となり町内の岩ヶ平公園を利活用した「市民が集う場所づくり」を行い「賑わいの創出」をする。 町内の保育所・幼稚園、高齢者をコアターゲットとして案内し、多世代交流の場として町民が誘い合って参加できる企画とする。
事業内容	<p>◆自治会が畑を借りてサツマイモを栽培し、その芋を使って焼き芋会を開催し、世代を超えた多くの人たちの参加を促し、集いと会話の楽しさだけでなく健康促進、防災・防犯意識の醸成などを図る事業。</p> <p>ここに行政の福祉担当者、福祉団体、安全安心の主管である芦屋消防署、警察署、県警察学校を協働者に迎え、加えて隣接する芦屋大学や同中・高校のボランティア活動部を加えてコミュニティづくりの実践と学ぶ場づくりとする。</p> <p>また栽培～収穫、公園清掃には町内の保育所・幼稚園に加えダウン症の子供や家族、この企画に参加する社協ほか関係者とその家族が支えあう協働の場とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会でサツマイモ苗 200 本を栽培、収穫、焼き芋会の一連の活動に色々な人々を巻き込み、それぞれの体験を通して「地域の交流の場づくり」を創出することができた。 ・災害時の避難誘導を狙いとした「車いす体験」「手作り担架体験」「水消火器による消火体験」に加え公園内防災倉庫の備品を展示し、参加者に防災意識を高めた ・芦屋警察署には多発している特殊詐欺事件の防止啓発活動をお願いし、パトカーや白バイの参加を通して警察が遠い存在でないことを意識付けられた。 ・隣接する県警察学校生 26 名（教官 2 名を含）がボランティア参加して各イベントに加わることで、将来の警察官と地域との交流の大切さを体験する場とすることができた。 ・幼児や子供向けの体験プログラムやどんぐり銀行、高齢者にもできる健康体操教室を用意してより多くの参加を促し、「町民同士が楽しく顔を合わせる機会の場」を創出することができた。 ・障がい者の参加をきっかけに所轄間の一体像を促す一助となった。

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	5	4	中旬	三木ガルテン	畑借用の確定	3	
		5	27	三木ガルテン	畑耕作～畝づくり、マルチシート作業実施 ※写真	4	16
		6	7	三木ガルテン	サツマイ苗購入と芽出し	1	
		6	10	三木ガルテン	芋苗植え付け作業 10人参加 以降、水やり、草取りなど推進	5	5
		7	24～ ～28	岩ヶ平公園	※夏休みラジオ体操時の啓蒙 熱中症対策に水配布	10	延べ 650人
		8	8/20 ～25		前期(7/25～28) 延べ400人 後期(8/20～25) 延べ250人		
		9	8	市役所	関係者推進会議 ・収穫祭、焼き芋会日程確定 ・ポスターデザイン確定 ・協賛候補者確定⇒依頼へ	8	
			30	芦田事務所	自治会役員会議 推進会議報告、収穫祭要領 役割分担など確認	13	
		10	19	—	保育所、幼稚園への正式案内 消防署、警察署、警察学校、芦屋学園中高などへの協力参加 依頼状発信(事務局)	1	
		11	11 17	三木ガルテン 市役所	さつま芋収穫祭(53名参加) 最終打ち合わせ会議 役割分担表確認 運営詳細確認 など	20 6	33
		25	岩ヶ平公園	公園落ち葉拾い清掃と 焼き芋会 スタッフ(協力者) 112名 一般参加者 333名	112	333	
	12	6	市役所	関係者反省会議	8		
目標の 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 芋苗購入：200本 畑の畝づくりと芋苗植え付け作業参加者：延べ30名 夏休みラジオ体操時の熱中症対策飲料配布480本（前後半参加者/延べ650人） 芋収穫参加者：53名 開催のチラシ・ポスターを作成・配布： 自治会員、保育所、幼稚園その他関係先 チラシ1000枚、会場レイアウト図1500枚、ポスター100枚 サツマイモ収穫量：約600個（焼き芋にできるサイズのもの） 当日の収穫祭参加者・自治会運営委員への配布 そのほかに芦屋女子会、ダウン症家族の会「やどりぎ」への提供など 11月25日の参加者数：445名（スタッフ112名、一般333名） 						

<p>事業効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内にある公園が単なる「子供のあそび場」「桜の名所」「モンテベロバラ園」という場所だけでなく、町内外の方が参加したことで改めて「集う場所」として認識できた。今後の利活用の機会が高まるきっかけづくりとなった。 ・活動に参加して初めて公園を清掃するという体験ができた子供や保護者が多く、いつもの公園の実態を知り、「町内の公園は町民で見守り・育てていく」という意識付けができた。 ・「落ち葉で焼き芋を」という体験だけでなく、子供向けや大人向けのプログラムを通して、「人と人との交流の場」が提供できた。 特にコロナ禍により交流が疎遠になってきていた環境の改善につながった。参加者が笑顔で会話するという「まちの原点」ともいえる光景が実現した。 ・芋なえの植え付け作業は天候の関係で平日に実施せざるを得なかったが、畝づくりや収穫祭に畑に参加できたことで子供には楽しいプログラムが提供できた。 子供だけでなく保護者たちも土に触れる機会がほとんどない今の時代に、子供と一緒に大きな歓声を上げて芋を収穫する光景は主催するスタッフに「やってよかった」という強い満足感と保護者たちの笑顔が印象に残った。 ・芋の植え付け（栽培）から収穫、食べるまでの過程、最後に美味しくいただくことへの体験が貴重で自然への敬意を味わう機会になった（食育）。 ・関係者にダウン症の子供とその家族があり、参加を通して参加者たちと交流が生まれ、ダウン症への偏見をなくし、相互理解が深まった。 また会うと「やあ」と笑顔で声かけあう間となってきて、清々しい気持ちになってきた。 ・地域、行政、学校などの「ぐるみ」活動により生まれた”繋がり”や”面識”が、災害時の共助などに大きな役立ちをすることが再認識できた。 ・今イベントを通じ 警察学校生のボランティア参加 26名（教官2名含） 芦屋大学生8名、芦屋学園中高生6名、芦屋国際高校生2名の参加 芦屋消防署5名、芦屋警察署5名 が参加 どんぐり銀行2名、健康体操講師1名、光る泥団子遊び講師1名が参加 などの支援サポート者があり、地域と近隣各団体との大きな交流の場ができたことが貴重であった。 ・関係諸団体間の相互認知が生まれ、今後の活動へのエネルギーを生むこととなる。
<p>補助金交付終了後の事業展開、今後の展望</p>	<p>12月6日の反省会から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今企画は協力体制が確立され、また学校や関係諸団体との意思疎通もできて大成功と言える。 ・一自治会の催事としては規模が大きくなり、今後の同様規模での開催については今回の規模がMAXであることを確認した。 ・芋苗を植える所から収穫、焼き芋というイベントの設定、焼き芋を食し美味しいと感じる感性は、食育の観点からも貴重な体験を提供できた。 何よりも畑でダウン症の子供たちやその家族と他の参加者の子供たちが和気あいあいと談笑する姿は、求めている姿そのものであった。 出来ることならば継続したい。 自治会側の体力次第で、若い層の参画が今後の継続可能性のキーとなる。 ・今企画は来年にも継続することが決定・確認されたが、自治会としては今の役員層より若い年代層の取り込みが重要なキーであることを再認識した。

事業実施状況を示す写真



B-13 おさんぽガーデン vol.6 / Osanpo Garden 実行委員会

活動地域	西宮市
協働団体	兵庫県立大学学生災害復興支援団体「LAN」
事業の 目的・趣旨	<p>西宮市は阪神淡路大震災で大きな被害を被った。しかし、今の若い人たちはその時のことを知らない。そこで大震災を経験した私たちが、家族で震災について考えるきっかけとなるイベントができることを目的とした。</p> <p>また、兵庫県立大学の学生災害復興支援団体「LAN」ができるきっかけとなった東日本大震災についても伝え、これから起こるとされている南海トラフ地震についても一緒に考えられるイベントにしたい。</p> <p>そのため、現役大学生たちにも協力してもらいつつ、震災の経験を伝え、併せて防災の大切さを子供も楽しめるイベントにして伝える。</p>
事業内容	<p>現状通り、マルシェ、ワークショップ、ステージ発表を行いつつ、震災、防災コーナーを設け、子どもたちも参加できる防災企画を行う。また、家族で楽しむおさんぽガーデンで、防災に関するステージ発表や展示、参加型企画等を行い、家族で防災について考えるきっかけ作りをする。</p> <p>今年もマルシェ、ワークショップを行い、幼稚園児、小学生が楽しめるイベントを目指した。小学校にチラシを配布し、周知努力を行った。</p> <p>ステージ発表では、ダンス、歌、楽器、パフォーマンス、絵本の読み聞かせなど、楽しめるステージを行った。付け加えて、「LAN」の学生たちに子供たち参加型の防災クイズを行ってもらい、楽しく防災について学べる場を設けた。</p> <p>またステージ発表終了後、ビンゴゲームを行い、景品として防災に役立つものなどをプレゼントした。</p> <p>本部の展示では、西宮市からお借りした防災グッズを並べたり、防災マップを大きく印刷して展示したりした。また、防災等に関するチラシを西宮市からいただき、そちらも自由に持ち帰ってもらえるようにした。</p> <p>「LAN」の学生たちは防災に役立つ行動、動作を組み合わせた「防災障害物競走」を企画し、子どもたちが参加できるようにした。</p> <p>本部は「防災クイズラリー」を企画し、参加者を募った。</p> <p>以上のように、様々な企画で防災について考えるきっかけができるようにした。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	23	6	上旬	青い鳥	出店者・出演者の募集開始	4	4
					ボランティアの方たちとの会議	4	
		8	下旬	青い鳥	出店者・出演者の選定	4	4
					チラシ作成	4	
		9~	10		防災企画の準備	6	4
					開催準備	6	
		10	28	鳴尾浜臨海公園	前日会場準備	6	6
		10	29	鳴尾浜臨海公園	開催当日	6	20
		10	30	鳴尾浜臨海公園	翌日会場片付け・清掃	4	
		12	2	青い鳥など	後日支払いなどの清算完了	2	
	12	中旬		反省会	6		
目標の達成状況	<p>「防災クイズラリー」は予定人数に達しなかったが、「LAN」企画の「防災障害物競走」は定員数を達した。</p> <p>また、防災クイズやビンゴゲームにはたくさんの子供たちが参加してくれた。今年も3000人超えの人が来場してくださり、家族でマルシェ、ワークショップ、ステージ発表などを楽しんでくださった。</p> <p>その中で、展示している防災マップを家族で見てくださいたり、持ち帰った防災に関する景品を見ながら話をしてくださっていたりする姿もあった。</p>						
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> イベントを実施することにより、西宮という都市部にありながらも自然に触れ合う場所が身近にあること、小さな子ども連れでも行けるあたたかいお店や交流の場があることを周知してもらった。 ワークショップなどを通して、モノづくりの楽しさや人との交流の大切さを味わうことができた。 防災について知ることができ、ハザードマップなどを活用し、災害に備える力を身に付けられた。 						
補助金交付終了後の事業展開、今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> おさんぽガーデンは6回目を終え、イベントとしては周知されてきた。私たちも経験値が高くなり、より良いイベントになってきたと思う。 しかし、防災について考えるという企画は今回初めてのことで、反省する点も多くある。もっと分かりやすく、もっと興味を持ってもらえるようにするためにはどうすればいいかなどを考えていかなければいけない。例えば、テントを張ってゆっくり休憩している家族の方に、その場で防災について話し合えるような会場づくりをするなど、視覚的に、より訴えられる方法を考えていきたい。 防災については、一度きりで終わらず、今後も考えていきたい事柄なので、今年の反省を活かしつつ、来年以降も続けていきたい。 						

事業実施状況を示す写真



B-14 2023 西宮ギャラリーさんぽ / 西宮ギャラリー連絡会(NGL)

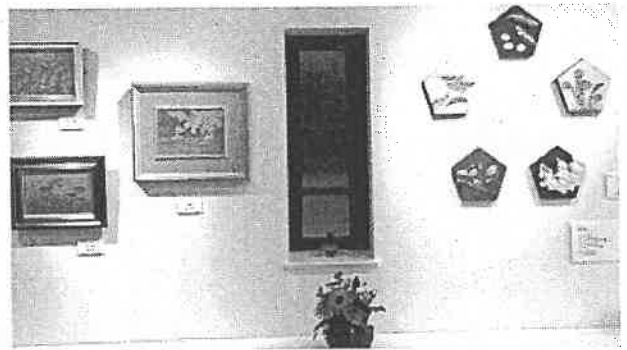
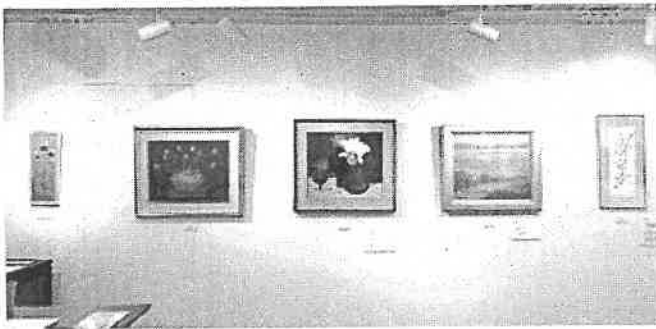
活動地域	西宮市
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>西宮ギャラリー連絡会は、アートを通して街の魅力を高めて発信するために組織している。</p> <p>「西宮ギャラリーさんぽ」は、西宮市大谷記念美術館と連携して、ギャラリーの展覧会をスタンプラリーで巡ることで「街のギャラリー」の存在を知ってもらい、多くの人にアートを身近に感じてもらうきっかけになることを目的としている</p>
事業内容	<p>2023 西宮ギャラリーさんぽ</p> <p>西宮市大谷記念美術館の「2023 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」(8/19～10/9)の会期と合わせて 西宮市内のギャラリーで、今年または過去の入選作家など絵本に関わる展覧会や、地元作家の個展など 31 の展覧会を開催し、それらをスタンプラリーで巡るイベントとして 8/25～10/9 の期間実施した。</p> <p>展覧会数は 西宮ギャラリー連絡会の展覧会が 24 他団体の展覧会が 7 で合計 31 展、会場は NGL の 7 ギャラリーと西宮市立北口ギャラリー、西宮市立市民ギャラリー、今年は新たに西宮阪急と 阪神鳴尾駅前の「みんなのちっちゃなアートボックス」が加わり、計 11 カ所で行った。</p> <p>パンフレットを作成し、表面に大谷美術館の展覧会と 31 展覧会のタイトルと会期 開催場所を記載、裏面のマップにはアクセスや交通機関、協力店舗などと共に展覧会スクジュールを掲載して参加者の便宜を図った。ギャラリーは西宮市内に点在していて 1 日で複数のギャラリーを回るのがたいへんな面もあるのだが、近隣のギャラリーの会期が重なることで、来場促進効果があった。</p> <p>またこのパンフレットを台紙としたスタンプラリーも好評で、スタンプを 7 つ集めると完成とし、プレゼントの景品(ノート)も喜ばれた。</p> <p>今年はボローニャ展の会期が長かったが、入選者展が 5 展あり、やはり入選者展の反響は大きく、大谷美術館との連携は有意義だと感じた。展覧会を巡る中で作家に会えたり、スタッフとの会話を楽しんだりした方も多く、アートを身近に感じてもらうことができたと思っている。</p> <p>アンケート結果からも 総数 182 のうち 大変よかった 121 よかった 45 の回答に好評だったことがうかがわれる。</p> <p>会場の総入場者数 6,896 人</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	5	6	1	事務局	事業の準備会議	8	
				各ギャラリー &事務局	展覧会企画 参加団体確認 パンフレット作成		
		7	19	事務局	パンフレット発送作業	8	
		8	25 ～	各ギャラリー	「ぎやらりーさんぽ」開始	8	6,896
		10	9	各ギャラリー	「ぎやらりーさんぽ」終了	8	
		10 11	19 15	事務局 事務局	事業の総括会議 残務整理・報告書作成	8 3	
目標の 達成状況	<p>実施展覧会数 31展 来場者数 6,896人</p> <p>展覧会数、来場者数共に昨年より多くなり、西宮市内でこのイベントが少しずつ知られてきて、市民や近隣の市からもギャラリーを訪れてアートを楽しんでくれる人が増えてきたことを感じる。また大谷記念美術館や、他団体との連携もアートの広がりを感じられる。</p>						
事業効果	<p>昨年からの西宮美術協会展や、市民ギャラリー 北口ギャラリーの展覧会に加えて、西宮阪急、みんなのちっちゃなアートボックス（鳴尾自治会&武庫川女子大）等他団体に参加してもらったことは 今まで知らなかった会場を知ってもらい、それぞれの展覧会の来場者が増えることで好評であった。</p> <p>スタンプラリーに協力して下さった市民ギャラリー 北口ギャラリーの指定管理者者双葉化学商会からも公共のギャラリーを訪れる人が増えたことで喜んでもらっている。また、宣伝に協力してくれる店舗も増えてきて、広がりを感じる</p>						
補助金交付 終了後の事業 展開、今後の 展望	<p>今後も多くの人にアートを身近に親しんでもらえるよう、「ぎやらりーさんぽ」企画は続けていきたいと考えている。</p> <p>西宮市立大谷記念美術館との連携の継続、各ギャラリーの展覧会の充実、近隣のギャラリーの会期ができるだけ重なるように計画すること、また無理のない範囲で他団体と協力することも今後さらに検討していきたい。</p> <p>また資金面では 協賛費の増額やスポンサーの獲得など、補助金に頼らない事業運営ができるように努めていきたい。</p>						

事業実施状況を示す写真

ギャラリーねうねう

Go! Go! 80's



ギャラリーアライ

東郷なりさ絵本原画展



ギャラリーこもれび

寺澤智恵子個展



Art Space 萌芽

ofune 展

